

第五條 北海道廳ニ左ノ技術官ヲ置ク

技 長
技 手

第六條 北海道廳ニ左ノ學務官ヲ置ク

農學校長
農學校幹事
農學校教授
農學校助教

第七條 長官ハ勅任トス北海道拓地殖民ニ關スル一切ノ事務ヲ總判シ廳中委任官ノ進退ハ内閣ニ具狀シ判任以下ハ之ヲ專行ス

第八條 長官ハ一般ノ法律命令北海道ニ施行シ難キモノアリト思量スルトキハ其意見ヲ具ヘ内閣ニ上申スルコトヲ得又北海道ニ須要ナリト認ムル所ノ法律命令ノ案ヲ具ヘ内閣ニ上申スルコトヲ得

第九條 長官ハ各省主任ノ事務ニ就テハ各省大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第十條 長官ハ屯田兵開墾授産ノ事務ヲ監督ス

第十一條 長官ハ毎年度末ニ於テ其處務ノ方法及功程ヲ具ヘ内閣ヘ報告ヘス

第十二條 理事官ハ奏任トス事務ヲ長官ニ受ケ各其主務ヲ幹理ス

第十三條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ受ケ各庶務ニ従事ス但支廳ニ於テハ各課長ニ充ツルコトヲ得

第十四條 警部長及警部ハ事務ヲ長官又ハ支廳長ニ受ク其職制ハ明治十一年第三拾貳號太政官達府縣官職制ニ依ル

第十五條 郡區長ハ事務ヲ長官又ハ支廳長ニ受ケ部内ノ事務ヲ掌リ併セテ町村戸長ヲ監督ス

第十六條 郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ受ケ各庶務ニ従事ス

第十七條 典獄以下職制ハ明治十四年第九號太政官達内務省所轄集治監職制ニ依ル但典獄ハ事務ヲ長官ニ受ク

第十八條 技長ハ事務ヲ長官ニ受ケ技術ノ事ヲ幹理ス

第十九條 農學校長ハ事務ヲ長官ニ受ケ學校ノ事務ヲ掌リ及職員ヲ管理ス

第二十條 農學校幹事ハ校長ノ命ヲ受ケ學校ノ庶務ヲ管理ス校長事故アルトキハ其事務ヲ代理スルコトヲ得

第二十一條 農學校教授ハ生徒ノ教授ヲ掌ル

第二十二條 農學校助教ハ教授ノ職掌ヲ助ク

▲明治十九年一月布告第壹號

○第一類○行政法○北海道廳官制

北海道ハ土地荒蕪住民稀少ニシテ富庶ノ事業未タ普ク邊隅ニ及フコト能ハス今全土ニ通シテ拓地殖民ノ實業ヲ舉グルカ爲ニ從前置ク所ノ各廳分治ノ制ヲ改ムルノ必要ヲ見ル因テ左ノ如ク制定ス

第一

函館札幌根室三縣並北海道事業管理局ヲ廢シ更ニ北海道廳ヲ置キ全道ノ施政並集治監及屯田兵開墾授産ノ事務ヲ統理セシム

第二

北海道廳ヲ札幌ニ支廳ヲ函館根室ニ置ク

奉 勅

○第廿三款 地方遞信官官制

▲明治十九年三月勅令第八號

朕地方遞信官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

勅令第八號

地方遞信官官制

第一條 地方郵便電信ノ事務ヲ管理スル爲ニ須要ノ地方ニ遞信管理局ヲ

置キ遞信大臣ノ管轄ニ屬セシム

第二條 各遞信管理局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

遞信管理局長

遞信管理局次長

遞信監察官

遞信監察官補

第三條 遞信管理局長ハ奏任三等四等五等トス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承

ケ地方遞信ノ事務ヲ管理ス

第四條 遞信管理局次長ハ奏任現任局長ノ次等以下トス遞信管理局長ノ

事務ヲ佐ク若シ局長ナキトキ又ハ局長事故アルトキハ遞信大臣ノ命ニ

依リ局長ノ事務ヲ掌理ス

第五條 遞信監察官ハ奏任四等以下トス局長ノ命ヲ承ケ遞信事務監察ノ

事ヲ掌ル

第六條 遞信監察官補ハ判任トス遞信監察官ノ事務ヲ佐ク

第七條 地方郵便電信ノ事務ヲ掌理スル爲ニ郵便局及電信分局ヲ置キ遞

信管理局ノ管理ニ屬セシム

郵便局ノ等級ヲ分テテ一等二等及三等トス又電信分局ノ等級ヲ分テテ

○第一類○行政法○地方遞信官々制

二等二等及三等トス

第八條 郵便局及電信分局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

郵便局長

郵便書記

電信分局長

電信書記

第九條 一等郵便局ノ局長ハ奏任四等以下トス二等郵便局及三等郵便局ノ局長ハ判任トス遞信管理局長ノ指揮命令ヲ承ケ成規ニ從ヒ其局務ヲ掌理ス

第十條 郵便書記ハ判任トス郵便事務ニ從事シ郵便局長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

郵便書記ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十一條 一等電信分局ノ局長ハ奏任四等以下トス二等電信分局及三等電信分局ノ局長ハ判任トス遞信管理局長ノ指揮命令ヲ承ケ成規ニ從ヒ其局務ヲ掌理ス

第十二條 電信書記ハ判任トス電信事務ニ從事シ電信分局長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

電信書記ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

○第廿四款 皇宮警察署官制

▲明治十九年五月宮内省達第五號

主殿寮中門監門監補門部消防監消防監補消防嚮導消防手ヲ廢シ同寮中更

ニ皇宮警察署ヲ置キ官制ヲ定ムル左ノ如シ

奉 敕

皇宮警察長 一人 奏任

皇宮警察守門ノ事ヲ掌ル

皇宮警察次長 一人 奏任

皇宮警部 判任

皇宮警部補 判任

皇宮警手 等外

皇宮警察長皇宮警察次長官等俸給

皇宮警察長 奏任二等 上貳千圓 中千八百圓 下千六百圓

皇宮警察次長 奏任三等 上千五百圓 中千四百圓 下千三百圓

皇宮警察次長 奏任四等 上千二百圓 中千八百圓 下七百圓

皇宮警察次長 奏任五等 上九百圓 中八百圓 下七百圓

○第廿五款 鎮守府官制

▲明治十九年四月勅令第二拾五號

朕鎮守府官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十五號

鎮守府官制

第一條 鎮守府ニ參謀部軍醫部主計部造船部兵器部建築部軍法會議監獄署ヲ置ク

第二條 鎮守府管内ニ屯營水電營病院武庫倉庫ヲ配置ス

第三條 鎮守府ニ左ノ職員ヲ置ク

司令長官 一人 將官

參謀部

參謀長 一人 大佐或中佐

參謀 二人 少佐及大尉

司令長官傳令使 一人 大尉或中尉

司令長官秘書 一人 主計少監

司令長官秘書補 三人以内 主計及主計補

文庫主管	一人	尉官
測器試驗所主管	一人	同上
軍醫部		
部長	一人	軍醫大監或軍醫中監
部員	若干人	軍醫少監及軍醫
病院長	一人	軍醫監
主計部		
部長	一人	主計大監或主計中監
計算課長	一人	主計少監或大主計
人員課長	一人	大主計或中主計
材料課長	一人	同上
衣糧課長	一人	同上
給與課長	一人	同上
課員	若干人	主計及主計補
中央倉庫主管	一人	大主計或中主計
中央倉庫副主管	一人	主計
造船部		

○第一類 ○行政法 ○鎮守府官制

部 長	一 人	大佐或中佐
次 長	一 人	匠司 部内一科ノ長 ヲ兼ス
造船科長	一 人	匠司
造船科主幹	三人以内	同上
機械科長	一 人	同上
機械科主幹	三人以内	同上
兵器部		
部 長	一 人	佐官
次 長	一 人	少佐或大尉
主 幹	二人以内	尉官
武庫主管	一 人	同上
水雷庫主管	一 人	同上
建築部		
部 長	一 人	佐官
主 幹	三人以内	匠司
軍法會議		
判士長		海軍治罪法ニ依リ之ヲ置ク

判士 同上

主 理 同上

監獄署

署 長 一 人 大尉

警查長 三人 尉官

第四條 司令長官ハ其所屬ノ艦船軍人軍屬ヲ管轄シ軍港要港ノ防禦管内ノ警保艦船ノ製造修理兵器軍需品ノ貯藏配賦及兵員ノ召募徵集訓練ヲ掌ル

第五條 司令長官ハ其港内ニ旗艦ヲ置キ在港ノ艦船ヲ指揮ス

第六條 司令長官ハ平時ニ於テ麾下艦船ノ管外航海及例外行軍例外演習等ノ軍令ニ關スルモノハ海軍大臣ニ申報シ又軍人軍屬ノ進退黜陟轉換撰任及會計給與等ニ關スルモノハ海軍大臣ノ區處ヲ承クヘシ

第七條 司令長官ハ其管内ニ疑ハシキ艦船アルトキハ其搜索警戒ノ爲メ麾下ノ艦船ヲ管内ニ巡航セシムルコトヲ得但定例巡航外ニ涉ルトキハ海軍大臣ノ區處ヲ承クヘシ

第八條 司令長官ハ他管ノ艦隊又ハ艦船其港内ニ入港スルトキハ港内一般ニ係ル事項ニ就キ之ヲ指揮スヘシ

第九條 司令長官ハ管内騷擾ノ警アルトキハ先ツ情狀ヲ海軍大臣ニ申報シテ其區處ヲ承クヘシ但事火急ニシテ兵力ヲ要シ地方長官ヨリ出兵ヲ要求スルトキハ之ニ應ジ狀ヲ具シテ海軍大臣ニ急報シ仍ホ比隣鎮守府ニ通報スヘシ

第十條 司令長官ハ戰時若シハ事變ニ際シテハ其港内ニアル他管ノ艦船其他軍人ヲ以テ其港ヲ守衛ニ供スルコトヲ得

第十一條 軍政ニ關スル重要ノ事項ハ司令長官臨時軍政會議ヲ開キ其議長ト爲リ之ヲ審議決定スヘシ

第十二條 軍政會議ハ軍港司令官造船部長兵器部長建築部長主計部長ヲ以テ組織ス但時宜ニ依リ參謀長又ハ軍醫部長ヲ列セシム

第十三條 參謀長ハ司令長官ノ職務ヲ輔佐シ專ラ其職務ニ參シ軍醫部主計部其他各官廳ノ職員ヲ監視ス

第十四條 參謀長ハ司令長官不在中特ニ委任セラレタル事件ハ司令長官ノ名ヲ以テ命令ヲ出スコトヲ得

第十五條 參謀長ハ鎮守府所屬ノ病院監獄等ノ紀律ヲ監督ス

第十六條 參謀長ハ文庫及測器試驗所ヲ管理ス

第十七條 參謀長ハ前諸條ニ掲クル職務以外左ノ事務ヲ掌ル

一 軍港ノ守衛警保及造船部兵器部建築部ノ警察并門衛ニ關スル事項

二 海軍所屬砲臺ノ守衛及哨營等ニ關スル事項

三 管内沿岸ノ警報ニ關スル事項

四 海圖水路誌航海日誌ニ關スル事項

第十八條 參謀ハ參謀長ノ命ヲ承テ參謀部ノ事務ヲ分掌ス

第十九條 司令長官傳令使ハ差使及命令傳達ヲ掌リ又參謀部ノ事務ヲ分掌ス

第二十條 司令長官秘書ハ機密文書ヲ掌リ府内ノ庶務ヲ整理シ官印ヲ監守ス

第二十一條 司令長官秘書補ハ秘書ノ命ヲ承テ文書往復等ノ事務ニ服ス

第二十二條 文庫主管ハ參謀長ノ命ヲ承テ圖書ノ保存出納ヲ掌ル

第二十三條 測器試驗所主管ハ參謀長ノ命ヲ承テ測器ノ試驗ヲ掌ル

第二十四條 軍醫部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 鎮守府所屬ノ艦船營及諸官廳ノ醫務衛生上ニ關スル事項

二 軍港内ノ衛生ニ關スル事項

三 軍人ノ體格調査ニ關スル事項

四 恩給及賑恤金ニ係ル診斷書ニ關スル事項

○第一類○行政法○鎮守府官制

- 五、 斷訟醫事ノ記事
 - 六、 藥品醫療器械ニ關スル事項
 - 七、 糧食及飲料ノ検査ニ關スル事項
 - 八、 看護手看病夫ノ教育ニ關スル事項
 - 九、 醫務衛生ニ係ル報告統計ニ關スル事項
- 第二十五條 軍醫部長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス
- 第二十六條 軍醫部長ハ鎮守府一般ノ醫務衛生及軍醫官以下ヲ監督ス
- 第二十七條 部員ハ各所ニ派出シ治療及調劑ノ事ヲ掌ル
- 第二十八條 病院長ハ軍醫部長ノ命ヲ承ケ院内ノ紀律及患者ノ治療ヲ掌ル
- 第二十九條 病院長ノ下ニ軍醫少監以下若干人ヲ置キ治療及調劑ノ事ヲ掌ラシム
- 第三十條 醫務衛生ニ關スル重要ノ事項ハ軍醫部長司令長官ノ命ヲ承ケ臨時衛生會議ヲ開キ其議長ト爲リ之ヲ審議決定スヘシ
- 第三十一條 衛生會議ハ病院長艦船營軍醫長及部員若干名ヲ以テ組織ス
- 第三十二條 主計部ニ計算課人員課材料課衣糧課給與課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第三十三條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、 鎮守府ニ屬スル軍事費鎮守府所掌ノ營繕費下士卒ノ家族扶助金及鎮守府收入金ノ豫算調査ニ關スル事項
- 二、 兵器ノ修理ニ係ル經費金ノ豫算調査ニ關スル事項
- 三、 支出額仕譯書ノ調整ニ關スル事項
- 四、 各部ニ於テ製造シタル器具物品ノ價額調査ニ關スル事項
- 五、 鎮守府及所屬諸官廨ノ準備金管理ニ關スル事項
- 六、 鎮守府及所屬諸官廨ノ金錢出納ニ關スル事項
- 七、 下士卒家族扶助金ノ支給ニ關スル事項
- 八、 第一項ノ收支決算書ノ調整ニ關スル事項
- 九、 鎮守府及所屬諸官廨ノ金錢出納ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項

第三十四條 計算課ハ其課員ヲ造船部兵器部建築部ニ派出シ左ノ事務ヲ掌理セシム

- 一、 職工ノ出場退場ノ検査ニ關スル事項
- 二、 職工ノ名簿整頓ニ關スル事項
- 三、 職工ノ賃錢計算並其支給ニ關スル事項

○第一類○行政法○鎮守府官制

- 四、職工ノ増減ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第三十五條 計算課ハ其課員ヲ病院及監獄署ニ派出シ左ノ事務ヲ掌理セシム
 - 一、病院及監獄署ノ金錢出納ニ關スル事項
 - 二、病院及監獄署ノ庶務
 - 三、藥品醫療器械ノ出納ニ關スル事項
 - 四、囚人ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第三十六條 人員課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、鎮守府及所屬諸官廨ノ人員調査ニ關スル事項
 - 二、下士卒ノ名簿履歷簿調整ニ關スル事項
 - 三、下士卒ノ出入ニ關スル事項
 - 四、徵兵募兵ニ關スル事項
 - 五、豫備兵後備兵及海員ニ關スル事項
 - 六、下士卒ノ人員ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第三十七條 材料課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、材料物品ノ購買運搬供給出納ニ關スル事項
 - 二、材料物品ノ保存方法ニ關スル事項

- 三、各部貯藏ノ材料物品ノ價額調査ニ關スル事項
- 四、材料物品ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第三十八條 衣糧課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、被服糧食ノ員數調査ニ關スル事項
 - 二、被服糧食ノ準備ニ關スル事項
 - 三、被服糧食ノ運搬供給出納ニ關スル事項
 - 四、被服糧食ノ支給ニ關スル事項
 - 五、被服糧食ノ出納ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第三十九條 給與課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、俸給日給其他金錢給與ノ例規ニ關スル事項
 - 二、藥品醫療器械及患者ノ給與ニ關スル事項
 - 三、囚人ノ給與ニ關スル事項
 - 四、職工ノ賃銀ニ關スル事項
 - 五、府内ノ用度ニ關スル事項
- 第四十條 主計部長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス
- 第四十一條 主計部長ハ鎮守府一般ノ主計官以下ヲ監督ス
- 第四十二條 課長ハ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ整理ス

- 第四十三條 課員ハ課長ノ命ヲ承ケ課務ヲ分掌ス
- 第四十四條 主計部ハ中央倉庫ヲ所轄シ各部各官廨艦船營一般ノ需用ニ供スル爲メ普通ノ材料物品ヲ貯藏配付セシム
- 第四十五條 中央倉庫主管ハ主計部長ノ命ヲ承ケ倉庫ヲ管守シ材料物品ノ保存出納ヲ掌ル
- 第四十六條 副主管ハ主管ヲ助ケ其主務ヲ整理ス
- 第四十七條 造船部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 艦船及其機關ヲ新製改造修理スル事
 - 二 所屬ノ諸工場諸機械ヲ管理スル事
 - 三 艦材圓材等ヲ貯蓄保存シ及所用ノ材料ヲ檢査スル事
 - 四 船臺ニ於テ製造中ノ艦船ヲ管守スル事
 - 五 所管倉庫ノ材料物品ノ保存出納ニ關スル事項
 - 六 職工ヲ教育スル事
 - 七 兵器ヲ修理スル事
 - 八 艦船ノ新製改造修理ニ係ル概算書ヲ調整スル事
 - 九 造船ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第四十八條 兵器部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 兵器ノ貯藏保存配賦出納ニ關スル事項
- 二 砲銃水雷彈藥ノ試驗ニ關スル事項
- 三 火工ニ關スル事項
- 四 大砲水雷ノ備裝ニ關スル事項
- 五 兵器ノ修理ニ係ル概算書ヲ調整スル事
- 六 兵器ノ修理ニ係ル報告統計ヲ整理スル事
- 第四十九條 建築部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 官廨兵營學校病院官舎等ノ建築修理及其主管ニ關スル事項
 - 二 船渠船臺及埠頭ノ築造修理ニ關スル事項
 - 三 海軍ニ屬スル燈臺浮標電信其他水陸ノ工事ニ關スル事項
 - 四 港内ノ浚渫ニ關スル事項
 - 五 官廨造修簿ヲ記注シ及之ヲ管守スル事
 - 六 鎮守府所屬地ノ地券ヲ管守スル事
 - 七 所管倉庫ノ材料物品ノ保存出納ニ關スル事項
 - 八 建築修理ニ係ル仕樣帳及概算書ノ調整ニ關スル事項
 - 九 建築修理ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第五十條 造船部兵器部建築部ノ長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ主管ノ事務

ヲ總理ス

第五十一條 造船部ノ各科長ハ部長ノ命ヲ承ケ科務ヲ整理ス

第五十二條 造船部各科及兵器部建築部ノ主幹ハ部長ノ命ヲ承ケ各分掌ノ工業ヲ擔任ス

第五十三條 武庫水雷庫ノ主管ハ兵器部長ノ命ヲ承ケ兵器水雷及其屬具ヲ保存出納ヲ掌ル

第五十四條 監獄署長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス

第五十五條 警查長ハ署長ノ命ヲ承ケ警查ヲ指揮シ監獄ノ巡視警戒ヲ掌ル

第五十六條 各軍港ニ軍港司令部ヲ置キ其部下ニ豫備艦水雷部航海部ヲ置キ其職員ヲ定ムルコト左ノ如シ

軍港司令部

軍港司令官 一人 少將或大佐

軍港副官 一人 大尉

軍港司令官傳令使 一人 大尉或中尉

豫備艦部

豫備艦總理 一人 大佐或中佐

豫備艦副總理 一人 大尉

豫備艦機關長 一人 機關監

豫備艦船具庫主管 一人 尉官

水雷部

水雷司令 二人 佐官

水雷副司令 二人 大尉

航海部

部長 一人 豫備艦總理ヲ以テ之ニ充ツ

部員 二人 少佐及大尉

倉庫主管 一人 豫備艦船具庫主管ヲ以テ之ニ充ツ

第五十七條 軍港司令官ハ艦船營兵員及海軍所屬ノ砲臺ヲ指揮シ軍港ノ守備ヲ掌ル

第五十八條 軍港司令官ハ軍紀風紀ヲ維持シ所屬軍人軍屬ノ訓練教育ヲ監督ス

第五十九條 軍港司令官ハ鎮守府管轄ノ左ノ艦船ヲ指揮ス

一、常備艦船

二、練習艦

○第一類○行政法○鎮守府官制

三 艦裝中ノ艦船

四 豫備艦船

五 水雷船

第六十條 軍港司令官ハ其港内ニ在ル艦船ニ港内規則ヲ遵守セシムヘシ

第六十一條 軍港司令官ハ諸般ノ法律命令ヲ麾下ニ布達シ又麾下艦船營長ノ上申及報告ヲ點檢シ鎮守府司令官ニ進達ス

第六十二條 軍港司令官ハ麾下ノ艦船ヲ點檢シ其現狀性質並ニ乗員ノ景况ヲ詳知シ又常ニ艦船ヲ整頓準備シ若シ役務ニ適セサルコトヲ發見スルトキハ速ニ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第六十三條 軍港司令官ハ麾下ノ艦船ヲ各所ニ配置スルトキハ發航ノ前歸著ノ後及艦船新ニ麾下ニ屬スルトキハ之ヲ點檢シ其詳細ヲ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第六十四條 軍港司令官自ラ點檢ヲ行フ能ハサルトキハ豫備艦總理ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第六十五條 軍港司令官ハ麾下將校服務ノ程度ヲ觀察シ其黜陟轉換等ノ事ニ就テ意見アルトキハ之ヲ鎮守府司令長官ニ申告スヘシ

第六十六條 軍港副官ハ司令官ノ命ヲ承ケ軍港司令部ノ庶務ヲ整理シ文書ノ往復受附等ノ事ヲ掌ル

第六十七條 軍港司令官傳令使ハ差使及命令傳達ヲ掌リ又軍港司令部ノ事務ヲ分掌ス

第六十八條 豫備艦總理ハ軍港司令官ノ命ヲ承ケ豫備艦船ヲ管轄シ其守衛保存及就任準備ノ事ヲ總理ス

第六十九條 豫備艦副總理ハ總理ヲ輔佐シ其主務ヲ整理ス

第七十條 豫備艦機關長ハ豫備艦ノ機關ニ係ル事ヲ整理シ機關官以下ヲ監督ス

第七十一條 豫備艦船具庫主管ハ總理ノ命ヲ承ケ豫備艦ニ屬スル器具物品ノ準備保存ヲ掌ル

第七十二條 水雷司令ハ軍港司令官ノ命ヲ承ケ攻撃水雷及防禦水雷ニ關スル事項并ニ水雷艇隊及布設水雷ノ指揮ヲ掌ル

第七十三條 水雷副司令ハ司令ヲ輔佐シ其主務ヲ整理ス

第七十四條 航海部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 新艦ノ索具ヲ裝置スル事

二 所管倉庫ノ諸具ノ保存出納ニ關スル事項

○第一類○行政法○鎮守府官制

- 三 桅橋掛脱ニ關スル事項
- 四 消防隊ヲ監督シ及消防具ヲ監視スル事
- 五 航海用信號及信號所管理ニ關スル事項
- 六 港内規則ノ維持ニ關スル事項
- 七 港内艦船ノ錨地轉換及繫泊ニ關スル事項
- 八 艦船出入渠ニ關スル事項
- 九 繫船錨鎖ノ配置及其檢査ニ關スル事項
- 十 海軍所屬ノ浮標礁標及目標ノ管理ニ關スル事項
- 十一 軍港内ノ水路嚮導ニ關スル事項
- 十二 難破船救助ニ關スル事項
- 第七十五條 航海部長ハ軍港司令官ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス
- 第七十六條 部長ハ部長ヲ助ケ各分任ノ事項ヲ整理ス
- 第七十七條 倉庫主管ハ部長ノ命ヲ承ケ艦船附屬具等ノ保存出納ヲ掌ル
- 第七十八條 第三條第五十六條ニ掲クル職員ノ外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク
- 第七十九條 作業費ニ屬スル職員ハ此官制ニ依ラス

○第廿六款 海軍水路部官制

▲明治十九年四月勅令第二拾六號

朕海軍水路部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十六號

海軍水路部官制

第一條 海軍水路部ハ水路測量海圖調整水路誌編纂氣象觀測及圖誌測器ノ配備其他航海ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ル

第二條 水路部ニ測量科圖誌科測器科觀象臺計算課ヲ置ク

第三條 水路部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長	一人	少將
測量科長	一人	大佐或中佐
圖誌科長	一人	少佐
測量班長	三人	少佐或大尉
觀象臺長	一人	大尉或技術官
測器科長	一人	大尉
圖誌科僚	一人	同上

- 測量士 六人 大尉或中尉
- 觀測士 一人 尉官或技術官
- 計算課長 一人 屬
- 測量助手 若干人 判任技術官
- 觀測助手 若干人 屬或判任技術官
- 第四條 部長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス
- 第五條 部長ハ其名ヲ以テ水路告示ヲ發スルコトヲ得
- 第六條 測量科長ハ部長ノ命ヲ承ケ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、各班ニ下スヘキ測量教令ヲ立案スル事
 - 二、各班ノ測量原圖ノ精査及保管ニ關スル事項
 - 三、圖誌科ニ於テ調整セル海圖ノ調査ニ關スル事項
 - 四、各班ノ水路記事ノ調査ニ關スル事項
 - 五、測量經費豫算ニ關スル事項
 - 六、測量成績報告書及測量ニ關スル書類ヲ立案シ又ハ調査スル事
 - 七、測量ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第七條 測量科長ハ須要ナル方面ノ測量ニハ班長以下ヲ指揮シテ之ニ從事ス

- 第八條 測量班長ハ各班ニ長トシテ一方面ノ測量事業ヲ主幹シ原圖ヲ調整シ其水路記事ヲ記述スル事ヲ掌ル
- 第九條 測量士ハ各班ニ分屬ス
- 第十條 測量方面ノ狹少ナルモノハ測量士ヲシテ之ヲ主幹セシムルコトヲ得
- 第十一條 測量助手ハ各班ニ分屬シテ班長ノ命ヲ承ケ測量士ヲ助ク
- 第十二條 圖誌科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、測量原圖ニ依リ海圖ヲ調整スル事
 - 二、諸報告ヲ調査シ海圖水路誌ヲ編成補正改正シテ之ヲ出版スル事
 - 三、水路告示ヲ起草スル事
 - 四、艦船營ニ備フル海圖水路誌ノ定數ニ關スル事項
 - 五、海圖水路誌ヲ各鎮守府ニ配賦シ及新舊圖誌ヲ交換スル事
 - 六、圖誌ノ經費豫算ニ關スル事項
 - 七、圖誌ヲ保管スル事
 - 八、圖誌ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第十三條 測器科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、測器ヲ保護整頓製造修理スル事

- 二 艦船營ニ備フル測器ノ定數ニ關スル事項
- 三 測器ヲ各鎮守府ニ配賦シ及新舊測器ヲ交換スル事
- 四 測器ノ購買及經費豫算ニ關スル事項
- 五 測器ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第十四條 科長ハ部長ノ命ヲ承ケ科務ヲ整理ス
- 第十五條 科僚ハ科長ノ命ヲ承ケ科務ニ服ス
- 第十六條 觀象臺ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 天體氣象及鑷氣ヲ觀測シ經度ノ聯測ヲ行ヒ測器ヲ試驗シ警報ヲ發スル事
 - 二 沿海ノ氣象ヲ調査シ天候圖海流圖ヲ編成スル事
 - 三 觀象及測器試驗ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第十七條 觀象臺長ハ部長ノ命ヲ承ケ觀象臺ノ事務ヲ整理ス
- 第十八條 觀測士ハ臺長ノ命ヲ承ケ觀象臺ノ事務ヲ分掌ス
- 第十九條 觀測助手ハ臺長ノ命ヲ承ケ觀測其他ノ事ニ服ス
- 第二十條 計算課長ハ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ整理ス
- 第二十一條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 本部經費金收入金ノ豫算書決算書ノ調整ニ關スル事項

- 二 部内經費金收入金ノ出納ニ關スル事項
- 三 部内ノ庶務
- 第二十二條 第三條ニ掲クル職員ノ外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

○第廿七款 海軍督買部官制

▲明治十九年四月勅令第二拾七號
朕海軍督買部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十七號

海軍督買部官制

- 第一條 海軍督買部ハ海軍一般ノ需用物件ノ購買及不要物件ノ賣却ヲ掌ル
- 第二條 督買部ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 部長 一人 將官或同等官
 - 理事官 十三人 佐官及同等官若クハ匠司專務六人兼務七人
- 第三條 部長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス
- 第四條 理事官ハ購買賣却ノ事ヲ分擔ス

第五條 第二條ニ掲クル職員ノ外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

○第廿八款 海軍衛生部官制

▲明治十九年四月勅令第二拾八號

朕海軍衛生部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十八號

海軍衛生部官制

第一條 海軍衛生部ハ海軍ノ醫務衛生ニ關スル事項ヲ掌ル

第二條 衛生部ニ第一課第二課及衛生會議ヲ置ク

第三條 衛生部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 一人 軍醫總監

第一課長 一人 軍醫監

第一課僚 一人 軍醫

第二課長 一人 軍醫監

衛生會議議員 四人 軍醫監專務一人兼務三人

第四條 部長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス

第五條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 鎮守府艦隊及官廨ノ醫務衛生ニ關スル事項

二 戰時ノ醫務衛生ニ關スル事項

三 軍人ノ體格ニ關スル事項

四 艦船營學校病院監獄ノ構造ニ關スル衛生上ノ事項

五 恩給及賑恤金ニ係ル診斷書ノ調査ニ關スル事項

六 斷訟醫事ノ紀事

七 各海港ノ風土氣象及風土病ニ關スル事項

八 傳染病及流行病ノ豫防ニ關スル事項

九 遠洋航艦船ノ軍醫ニ與フル訓條ヲ立案スル事

十 軍醫官ノ職務及勤務ニ關スル事項

十一 軍醫官ノ採用及其試驗ニ關スル事項

十二 軍醫官軍醫生徒看護手看病夫教育方法ノ創設改良ニ關スル事項

十三 外國海軍ノ醫務衛生ニ關スル事項

十四 軍醫學ノ進歩及其參考品ニ關スル事項

十五 衛生費及醫事ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項

第六條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

○第一類○行政法○海軍衛生部官制

- 一 病院及艦船營各官廨ノ病室ニ備フル藥品療用品ノ品種及定數ニ關スル事項
- 二 前項諸品ノ費用ノ調査ニ關スル事項
- 三 第一項諸品ノ頁否及保存ノ調査ニ關スル事項
- 四 糧食ノ頁否及保存ノ調査ニ關スル事項
- 五 理化學上ノ諸檢査及記事ニ關スル事項
- 第七條 課長ハ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ整理ス
- 第八條 課僚ハ課長ノ命ヲ承ケ課務ニ服ス
- 第九條 部長ハ衛生會議ノ議長ト爲リ議事ヲ整理ス
- 第十條 部長ハ海軍一般ノ醫務衛生及軍醫官ノ學術ヲ監督シ其能否ヲ熟知スルヲ要ス
- 第十一條 部長ハ大臣ノ命ニ依リ或ハ其允許ヲ得テ海軍部内ノ各病院病室ヲ巡檢ス
- 第十二條 衛生會議ニ於テ議スヘキ事項ノ概目ハ左ノ如シ
 - 一 海軍一般ノ醫務衛生ニ關スル事項ノ當否及其改良
 - 二 軍醫官軍醫生徒看護手看病夫ノ教育方法
- 第十三條 第三條ニ掲クル職員ノ外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

○第廿九款 海軍醫學學校官制

▲明治十九年四月勅令第二拾九號

朕海軍醫學學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十九號

海軍醫學學校官制

- 第一條 海軍醫學學校ハ軍醫官ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス
- 第二條 醫學學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 校長 一人 軍醫總監之ヲ兼ス
 - 教授 十人 軍醫官專務五人兼務五人
 - 監事 三人 教授ノ内之ヲ兼ス
 - 計算課長 一人 屬
- 第三條 校長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ總理ス
- 第四條 教授ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル
- 第五條 監事ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督ス
- 第六條 計算課長ハ校長ノ命ヲ承ケ校内ノ會計及庶務ヲ掌ル
- 第七條 第二條ニ掲クル職員ノ外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

○第三十款 海軍會計検査部官制

▲明治十九年四月勅令第三拾號

朕海軍會計検査部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三十號

海軍會計検査部官制

第一條 海軍會計検査部ハ海軍一般ノ金錢物品ノ會計ヲ検査スル所トス

第二條 會計検査部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 一人 主計大監

検査官 四人 主計官

検査官補 屬

第三條 部長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス

第四條 部長ハ會計検査及決算證明ノ事ニ付テハ會計検査院長ニ對シ辯明ノ責ニ任ス

第五條 部長ハ大臣ノ命ヲ承ケ又ハ其允許ヲ得テ各官廳艦船營ヲ巡視シ其會計ヲ検査ス

第六條 部長ハ出納法規金錢物品給與ノ規則ニ付意見アルトキハ之ヲ大臣ニ開申スヘシ

第七條 部長ハ検査上ニ於テ主任者ノ説明ヲ要スルトキハ之ヲ喚問シ又直ニ之ト通信スルコトヲ得

第八條 検査官ハ部長ノ命ヲ承ケ成規ニ從ヒ各官廳艦船營ノ會計ヲ検査ス

第九條 検査官補ハ検査ノ事務ヲ補助ス

○第三十一款 海軍兵器製造所官制

▲明治十九年四月勅令第三拾壹號

朕海軍兵器製造所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三十一號

海軍兵器製造所官制

第一條 海軍兵器製造所ハ砲銃水雷彈丸其他ノ兵器及屬具ヲ製造修理シ及兵器購入ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 兵器製造所ニ製造科検査科材料課計算課ヲ置ク

○第一類 ○行政法 ○海軍兵器製造所官制

第三條 兵器製造所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人	大佐或中佐
次長	一人	中佐或少佐
製造科長	一人	匠司
検査科長	一人	少佐或大尉
製造科主幹	三人	匠司
検査科主幹	一人	大中尉或匠司
材料課長	一人	屬
計算課長	一人	同上
主庫	一人	同上

第四條 所長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス

第五條 次長所長ヲ助ケ其主務ヲ整理ス

第六條 製造科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、兵器及屬具ヲ製造修理スル事
- 二、購入スヘキ兵器ノ尺度種類數量ニ關スル事項
- 三、工場及諸器械ヲ管理スル事
- 四、材料ノ良否ヲ検査スル事

第七條 検査科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、造修及所内貯蓄ノ兵器及屬具ノ良否ヲ検査スル事
- 二、造修兵器及屬具ノ試験ニ關スル事項

第八條 材料課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、材料物品ノ保管及出納ニ關スル事項
- 二、材料物品ノ經費豫算ニ關スル事項

第九條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、本所經費金收入金ノ豫算書決算書ノ調整ニ關スル事項
- 二、所内經費金收入金ノ出納ニ關スル事項
- 三、造修兵器及屬具ノ價格ノ調査ニ關スル事項
- 四、工夫職工毎日ノ出場退場ノ調査ニ關スル事項
- 五、工夫職工ノ賃錢計算并其支給ニ關スル事項
- 六、兵器及其屬具并材料物品ノ購買ニ關スル事項
- 七、所内ノ庶務
- 八、所内ノ復舊修繕
- 九、本所ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項

第十條 科長及課長ハ所長ノ命ヲ承ケ其主務ヲ整理ス

第十一條 主幹ハ科長ヲ助ケ其主務ノ工事ヲ分擔ス
第十二條 主庫ハ兵器及屬具ノ保存出納運搬及損物ノ修理ヲ爲スコトヲ掌ル

第十三條 第三條ニ掲クル職員ノ外軍醫一人看護手一人ヲ置キ又屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

○三十二款 海軍火藥製造所官制

▲明治十九年四月勅令第三拾二號

朕海軍火藥製造所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三十二號

海軍火藥製造所官制

第一條 海軍火藥製造所ニ製造科検査科計算課ヲ置ク

第二條 火藥製造所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人 佐官

製造科長 一人 匠司

検査科長 一人 同上

計算課長 一人 屬

第三條 所長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ總理ス

第四條 製造科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 火藥ヲ製造スル事

二 工場及諸器械ヲ管理スル事

三 材料ノ良否ヲ検査スル事

第五條 検査科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 製造及所内貯蓄ノ火藥ノ良否ヲ検査スル事

二 製造火藥ノ試験ニ關スル事項

第六條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 本所經費金收入金ノ豫算書決算書ノ調整ニ關スル事項

二 所内經費金收入金ノ出納ニ關スル事項

三 製造火藥ノ價額ノ調査ニ關スル事項

四 工夫職工毎日ノ出場退場ノ調査ニ關スル事項

五 工夫職工ノ賃錢計算并其支給ニ關スル事項

六 材料ニ關スル事項

七 火藥ノ拂下ニ關スル事項

○第一類 ○行政法 ○海軍火藥製造所官制

- 八 所内ノ庶務
- 九 所内ノ復舊修繕
- 十 本所ニ係ル報告統計ノ整理ニ關スル事項
- 第七條 科長及課長ハ所長ノ命ヲ承ケ其主務ヲ整理ス
- 第八條 第二條ニ掲クル職員ノ外軍醫一人看護手一人ヲ置キ又屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

○第三十三款 横須賀造船所官制

▲明治十九年五月海軍省令第三十五號

海軍一般

横須賀造船所官制左ノ通定ム

横須賀造船所官制

第一條 横須賀造船所ハ横須賀鎮守府ノ管理ニ屬シ作業費ヲ以テ艦船機關及其屬具ヲ製造修理スル所トス

第二條 横須賀造船所ニ造船科機械科艦裝科建築科計算課倉庫費舎ヲ置ク

第三條 横須賀造船所ニ左ノ職員ヲ置ク

大中佐

次長	一人	技師 所内一科ノ長
所長專屬員	十二人	屬
造船科長	一人	技師
造船科主幹	三人	技師
造船科屬員	四人	屬一人 技手三人
造船科工場長	五人	技手
造船科工場掛	十九人以内	技手
機械科長	一人	技師
機械科主幹	三人	技師
機械科屬員	四人	屬一人 技手三人
機械科工場長	七人	技手
機械科工場掛	十三人以内	技手
艦裝科長	一人	少佐或大尉
艦裝科主幹	一人	大中尉
艦裝科屬員	二人	判任武官或技手
艦裝科工場長	一人	技手
艦裝科工場掛	一人	技手

○第一類 ○行政法 ○横須賀造船所官制

建築科長	一人	技師
建築科屬員	二人	屬
建築科工場長	二人	技手
建築科工場掛	四人	技手
計算課長	一人	主計少監或大主計
計算課員	一人	大中主計
計算課屬員	十五人	屬
主庫	一人	屬
倉庫屬員	九人	屬
發倉長	一人	屬
發倉屬員	二人	屬
第四條	所長ハ横須賀鎮守府司令長官ノ命ヲ承テ所務ヲ總理ス	
第五條	次長ハ所長ヲ助ケ所務ヲ整理ス	
第六條	造船科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル	
一	作業費ヲ以テ艦船及其屬具ヲ新製改造修理スル事	
二	所屬ノ工場及諸機械ヲ管理スル事	
三	所内船臺ニ在ル艦船ヲ管理スル事	

第四條	本科ノ所用ニ屬スル購入材料ヲ檢査シ貯蓄材料ヲ調査スル事
第五條	作業費ヲ以テ新製改造修理スル艦船ノ入費概算書ヲ調整スル事
第七條	機械科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一	作業費ヲ以テ瀛機瀛罐及其屬具ヲ製造修理スル事
二	所屬ノ工場及諸器械ヲ管理スル事
三	本科ノ所用ニ屬スル購入材料ヲ檢査シ貯蓄材料ヲ調査スル事
四	作業費ヲ以テ新製改造修理スル瀛機瀛罐其屬具ノ入費概算書ヲ調整スル事
第八條	艦裝科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一	作業費ヲ以テ製造修理スル艦船ヲ艦裝スル事
二	所内ノ海面及諸浮標等ヲ管理スル事
三	船具及所屬諸船艇諸器械ヲ管理スル事
四	修履艦船ヲ繫維シ所内ノ船渠ニ艦船ヲ出入スル事
五	作業費ヲ以テ製造修理スル艦船ノ艦裝ニ係ル入費概算書ヲ調製スル事
第九條	作業費ヲ以テ製造修理スル艦船ノ兵器及其搭載ニ關スル事業ハ各其種類ニ依リ造船機械艦裝ノ三科ニ於テ分擔スヘシ

第十條 建築科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 作業費ヲ以テ船渠船臺土地家屋ヲ建築修繕シ其他土木ノ工事ヲ爲ス事
- 二 作業費ニ屬スル土地建造物及所屬工場諸器械ヲ管理スル事
- 三 作業費ニ屬スル建築修理ノ仕様帳ヲ調整スル事
- 四 本科ノ所用ニ屬スル購入材料ヲ検査シ貯蓄材料ヲ調査スル事
- 五 作業費ニ屬スル土地ノ地券ヲ管守スル事
- 六 作業費ニ屬スル建築修理ノ豫算決算ヲ計算スル事

第十一條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 興業費營業費收入金ノ出納及豫算精算ノ整理ニ關スル事項
- 二 海軍艦船ノ製造修理ニ關スル入費概算書ヲ統理スル事
- 三 材料需用物品ノ買辦賣却ニ關スル事項
- 四 倉庫貯蓄品ノ出納簿ヲ調査スル事
- 五 職工ノ出場退場ヲ調査シ及賃銀ヲ支給スル事

第十二條 倉庫ニ於テハ材料及需用物品ヲ貯藏シ其供給出納ヲ掌ル

第十三條 鑛舎ニ於テハ修業工夫ヲ教育ス

第十四條 科長課長主庫鑛舎長ハ造船所長ノ命ヲ承ケ各其主務ヲ整理ス

第十五條 各科主幹計算課員ハ各其長ヲ助ケ其主務ノ事業ヲ分擔ス

第十六條 所長專屬員ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 所内ノ庶務
 - 二 監護定人足ヲ支配スル事
 - 三 所内取締ノ事
 - 四 所内一般ノ報告統計ヲ整理スル事
- 第十七條 各科計算課倉庫鑛舎ノ屬員ハ各其長又ハ主幹ノ命ヲ承ケ其主務ニ從事ス
- 第十八條 各科工場長工場掛ハ科長又ハ主幹ノ命ヲ承ケ主務ノ工事ヲ分擔ス

○第三十四款 高等諸學校官制

▲明治十九年四月勅令第三十五號

朕高等師範學校高等中學校東京商業學校ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三十五號

高等師範學校高等中學校東京商業學校官制

第一條 高等師範學校高等中學校東京商業學校ニ左ノ職員ヲ置ク
學校長

高等師範學校ハ勅任二等又ハ奏任一等二等高等中學校東京商業學
校ハ奏任自一等至三等

教頭 奏任自一等至四等

教諭 奏任自一等至六等

幹事 奏任自四等至六等

助教諭 判任

舍監 判任

訓導 判任

高等師範學校ニ限リ之ヲ置ク

書記 判任

第二條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第三條 教頭ハ教諭ヨリ之ニ兼任ス

教頭ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教務ヲ整理シ教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ
掌ル

第四條 幹事ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ幹理ス
第五條 教諭助教諭訓導ノ員數ハ其學科ノ輕重及生徒ノ員數ニ應シテ之
ヲ定ム

○第三十五款 各鑛山局官制

▲明治十九年四月閣令第六號

三池鑛山局佐渡鑛山局生野鑛山局ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

三池鑛山局官制

第一條 三池鑛山局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ三池石炭採掘ノ事ヲ掌ル

第二條 三池鑛山局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

事務長

技術官

屬

第三條 事務長ハ一人奏任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事

ヲ掌理ス

第四條 技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事ス

○第一類○行政法○各鑛山局官制

第六條 三池鑛山局ニ工業課運輸課營繕課製作課及庶務課ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

佐渡鑛山局官制

第一條 佐渡鑛山局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ探鑛ノ事ヲ掌ル

第二條 佐渡鑛山局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

事務長

技術官

屬

第三條 事務長ハ一人奏任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

ヲ掌理ス

第四條 技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ従事ス

第六條 佐渡鑛山局ニ鑛場課製鑛課分析課機械課庶務課會計課及營繕課ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

生野鑛山局官制

第一條 生野鑛山局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ探鑛ノ事ヲ掌ル

第二條 生野鑛山局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

事務長

技術官

屬

第三條 事務長ハ一人奏任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

ヲ掌理ス

第四條 技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ従事ス

第六條 生野鑛山局ニ鑛場課製鑛課分析課機械課庶務課會計課及營繕課ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

▲明治十九年一月大藏省達第三號

警視廳府縣

當省管理三池佐渡生野鑛山ニ各工業所ヲ置ク

▲明治十九年一月內閣達第壹號

省院廳府縣

農商務省所轄三池佐渡生野三鑛山ノ事務自今大藏省ノ管理ニ付ス

奉 勅

○第三十六款

農學校山林學
校林區署 官制

▲明治十九年四月勅令第十八號

○第一類○行政法○農學校山林學校林區署官制

朕駒場農學校東京山林學校大小林區署ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御・名 御 璽

明治十九年四月十六日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
農商務大臣伯爵西鄉從道

勅令第十八號

駒場農學校官制

第一條 駒場農學校ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ農業及獸醫ノ諸學術ヲ教授スル所トス

第二條 駒場農學校ノ各専門學科ヲ卒ヘ定期ノ試験ヲ經タル者ニ卒業證書ヲ授與ス

第三條 駒場農學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

- 校長
- 幹事
- 教授
- 助教
- 助教補
- 舍監
- 書記

第四條 校長ハ一人奏任二等以下トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理シ及幹事以下ノ職員ヲ監督ス

第五條 幹事ハ一人奏任三等以下トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第六條 教授ハ奏任二等以下トス生徒ノ教授ヲ掌ル

教授ノ人員ハ生徒ノ員數及其學科ニ應シテ別ニ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第七條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐ク

第八條 助教補ハ判任トス職掌助教ニ同シ

第九條 舍監ハ判任トス校長若クハ幹事ノ指揮ヲ承ケ生徒及校舍ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

東京山林學校官制

第一條 東京山林學校ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ山林學術ヲ教授スル所トス

第二條 東京山林學校ノ學科ヲ卒ヘ定期ノ試験ヲ經タル者ニ卒業證書ヲ授與ス

第三條 東京山林學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

校長

幹事

教授

助教

助教補

舎監

書記

第四條 校長ハ一人奏任一等以下トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務

ヲ掌理シ及幹事以下ノ職員ヲ監督ス

第五條 幹事ハ一人奏任三等以下トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校

長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第六條 教授ハ奏任二等以下トス生徒ノ教授ヲ掌ル

教授ノ人員ハ生徒ノ員數及其學科ニ應シテ別ニ農商務大臣ノ定ムル所

ニ依ル

第七條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐シ

第八條 助教補ハ判任トス職掌助教ニ同シ

第九條 舎監ハ判任トス校長若シハ幹事ノ指揮ヲ承ケ生徒及校舍ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

大小林區署官制

第一條 大林區署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 長期施業案編制ノ事

二 小林區豫算ニ關スル事項

三 管區巡回視察ニ關スル事項

四 官林產物賣拂許否ニ關スル事項

五 林地境界調査分合ニ關スル事項

六 林地ノ變更及貸渡ニ關スル事項

第二條 大林區署ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

林務官

林務官補

書記

第三條 林務官ハ奏任二等以下トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ大林區署長ト爲リテ所轄官林ヲ管理ス

第四條 林務官補ハ判任トス其所部ヲ監督シ及署務ヲ分掌ス

第五條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承テ庶務ニ従事ス

第六條 小林區署ハ大林區署ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 短期施業豫算ノ事
- 二 山林諸產物採收及賣却ニ關スル事項
- 三 造林及林地改良ニ關スル事項
- 四 官林保護ニ關スル事項
- 五 官林内道路其他築造ニ關スル事項
- 六 林地測量製圖ノ事

第七條 小林區署ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

營林主事
營林主事補

第八條 營林主事ハ判任トス農商務大臣林務官又ハ林務官補ノ指揮監督ヲ承ケ小林區署長ト爲リテ所轄小林區ノ業務ヲ掌ル

第九條 營林主事補ハ判任トス署長ノ指揮ヲ承ケ營林ノ業務ヲ分掌ス

第十條 森林監守ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ林區保護ニ従事ス

森林監守ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ

○第三十七款

商船學校電
信修技學校 官制

▲明治十九年四月勅令第十九號

朕商船學校電信修技學校ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年四月十六日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
遞信大臣 榎本武揚

勅令第十九號

商船學校官制

第一條 商船學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航海運用機關ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條 商船學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

校長

幹事

教授

助教

○第一類 ○行政法 ○商船學校電信修技學校官制

書記

第二條 校長ハ一人奏任二等以下トス遞臣大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理シ及幹事以下ノ職員ヲ監督ス

第四條 幹事ハ一人奏任三等以下トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條 教授ハ三人奏任三等以下トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐ク

第七條 書記ハ判任トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
電信修技學校官制

第一條 電信修技學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ電機通信ノ技術ヲ教授スル所トス

第二條 電信修技學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ
校長
幹事
教諭

第三條 校長ハ一人奏任三等以下トス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理シ及幹事以下ノ職員ヲ監督ス

第四條 幹事ハ判任トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條 教諭ハ判任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

○第三十八款 農具製作所貯木所錦織網場官制

▲明治十九年四月閣令第七號

三田農具製作所貯木所錦織網場富岡製絲所千住製絨所新町紡績所ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

三田農具製作所官制
第一條 三田農具製作所ハ農商務省農務局管理ニ屬シ農具ヲ製作シ其改良ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 三田農具製作所ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ
所長
屬

第三條 三田農具製作所長ハ判任トス農務局長ノ指揮監督ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 屬ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○第一類 ○行政法 ○農具製作所貯木所錦織網場官制 二百十七

貯木所官制

第一條 貯木所ハ農商務省山林局ノ管理ニ屬シ須要ノ地方ニ之ヲ設ケ官材ノ貯蓄販賣ノ事ヲ掌ラシム

第二條 貯木所ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

所長

屬

第三條 所長ハ判任トス山林局長ノ指揮監督ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 屬ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

錦織綱場官制

第一條 錦織綱場ハ農商務省山林局ノ管理ニ屬シ木材保安ノ事ヲ掌ル

第二條 錦織綱場ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

場長

屬

第三條 場長ハ判任トス山林局長ノ指揮監督ヲ承ケ場中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 屬ハ判任トス場長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

▲明治十九年五月農商務省告示第拾三號

當省貯木所及錦織綱場位置左ノ通相定ム

貯木所位置 桑名 三重縣下伊勢國桑名郡桑名 白鳥 愛知縣下尾

張國愛知郡熱田

綱場位置 錦織 岐阜縣下美濃國可兒郡錦織

右告示ス

○第三十九款 製絲所製絨所 官制

▲明治十九年四月閣令第七號續

富岡製絲所官制

第一條 富岡製絲所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ製絲ノ事業ヲ經營シ其改良ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 富岡製絲所ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

所長

屬

第三條 所長ハ一人奏任二等以下トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ左ノ事務ヲ掌理ス

一 富岡製絲ノ事業管理ニ關スル事項

二 購買入及製絲等販賣ニ關スル事項

三 工場建物器械ノ保存及修繕ニ關スル事項

○第一類○行政法○製絲所製絨所紡績所官制

第四條 屬ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

千住製絨所官制

第一條 千住製絨所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ製絨事業ヲ經營シ其改良ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 千住製絨所ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

所長

屬

第三條 所長ハ一人委任二等以下トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ左ノ事務ヲ掌理ス

一 絨類製造ニ關スル事項

二 製造材料ノ購入及販賣ニ關スル事項

三 工場建物器械ノ保存及修繕ニ關スル事項

第四條 屬ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

新町紡績所官制

第一條 新町紡績所ハ農商務省工務局ノ管理ニ屬シ屑絲ノ紡績事業ヲ經營シ其改良ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 新町紡績所ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

所長

屬

第三條 所長ハ判任トス工務局長ノ指揮監督ヲ承ケ左ノ事務ヲ掌理ス

一 屑絲紡績ニ關スル事項

二 製造材料ノ購入及製品販賣ニ關スル事項

三 工場建物器械ノ保存及修繕ニ關スル事項

第四條 屬ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○第四十款 下總牧場官制

▲明治十九年四月閣令第九號

下總牧場ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

下總牧場官制

第一條 下總牧場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ兼テ嶺岡支牧場ヲ管轄シ牛馬羊ノ改良蕃息ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 下總牧場ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

場長

屬

第三條 場長ハ判任トス農務局長ノ指揮監督ヲ承ケ場中ノ事務ヲ掌理ス
第四條 屬ハ判任トス場長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○第四十一款 唐津石炭用所官制

▲明治十九年六月海軍省令第四十三號

明治十六年(二月)丙第十六號達唐津石炭用所章程ヲ廢シ同所官制左ノ通
定ム

唐津石炭用所官制

第一條 唐津石炭用所ハ横須賀鎮守府ノ管理ニ屬シ海軍所屬ノ石炭山ヲ

管シ作業費ヲ以テ石炭ヲ採掘シ之ヲ運輸スル所トス

第二條 唐津石炭用所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人 奏任三等或四等ノ機關官主計官 屬員 三人 屬

第三條 所長ハ鎮守府司令長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ總理ス

第四條 屬員ハ所長ノ命ヲ承ケ左ノ事項ヲ分擔ス

一 炭山ノ測量、採掘方ノ監視、炭質代價及其納拂ノ調査、炭庫ノ管守、
運送船炭山稼人ノ支配及所内ノ營繕

二 作業費及收入金ノ出納整理豫算決算及需用物品ノ買辦供給

三 諸公文ノ取扱用使給仕小使ノ支配及所中ノ雜務

○第四十二款 地方官官制

▲明治十九年七月勅令第五拾四號

朕地方官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五拾四號

地方官官制

府縣

第一條 各府縣ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

知事

書記官

收稅長

屬

收稅屬

典獄

副典獄

書記

看守長

看守副長

第二條 知事ハ一人勅任二等又ハ奏任一等トス内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政及警察ノ事務ヲ總理ス但東京府知事ハ勅任一等ニ陞ルコトヲ得

第三條 知事ハ部内ノ行政及警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第四條 府縣令ハ官報其他特ニ定ムル方法ニ依リ一般ニ公布シタル後其効力アルモノトス

第五條 府縣令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セラルコトアルヘシ

第六條 知事ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣及主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第七條 知事ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ヲ爲メ兵備ヲ要スルトキハ鎮臺若クハ分營ノ司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第九條 知事ハ各郡區内警察分署ノ配置分合ヲ定ム

第十條 知事ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十一條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 知事ハ一周年末ニ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ經技術官官等俸給令ニ依リ技術官ヲ置クコトヲ得但地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ノ經費内ニ於テアルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經雇員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十四條 書記官ハ三次奏任二等以下トス知事ノ命ヲ承ケ部長トナリテ其所部ノ事務ヲ整理ス知事事故アルトキハ主席書記官其職務ヲ代理ス

○第一類○行政法○地方官官制

第十五條 收稅長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ命ヲ承ケ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算ノ庶務ニ從事ス

第十七條 收稅屬ハ判任トス收稅部ニ屬シ收稅長ノ指揮ヲ承ケ其主務ニ從事ス

第十八條 典獄ハ判任一等又ハ二等トス知事又ハ部長ノ命ヲ承ケ監獄ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮ス

第十九條 副典獄ハ判任三等乃至五等トス典獄ノ事務ヲ佐シ典獄事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第二十條 書記ハ判任六等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十一條 看守長ハ判任五等乃至七等トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ看守ヲ掌リ兼テ看守ノ勤惰ヲ視察ス

第二十二條 看守副長ハ判任八等以下トス看守長ノ職掌ヲ佐シ

第二十三條 看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十四條 府縣廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲ニ第一部第二部ヲ置キ部中便宜課ヲ設ケ書記官ヲシテ各一部ノ長ヲラシム

第一部

一 府縣會水利土功會區町村會ノ會議ニ關スル事項

二 地方稅區町村費備荒儲蓄ニ關スル事項

三 外國人ニ關スル事項

四 文書往復ニ關スル事項及官印府縣印ヲ看守スル事

五 農工商務ニ關スル事項

六 他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第二部

一 土木ニ關スル事項

二 兵事ニ關スル事項

三 學務ニ關スル事項

四 監獄ニ關スル事項

五 衛生ニ關スル事項

六 會計及公債證書ニ關スル事項

第二十五條 前條ノ外府縣廳中ニ收稅部ヲ置キ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル一切ノ事務ヲ分掌セシム部中課ヲ設クルハ第二十四條ノ例ニ依ル

第二十六條 前條ニ指定スル外臨時ノ事務ハ知事ニ於テ便宜其主掌ヲ定

ルコトヲ得

警察官

第二十七條 各府縣ニ左ノ警察官ヲ置ク

警部長

警部

警部補

第二十八條 警部長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ左ノ職務ヲ掌ル

一 管内高等警察ノ事

二 管内ノ警察ニ關スル一切ノ事務及警察ノ會計ニ關スル事務ヲ整理スル事

三 管内各部ノ警察官ヲ指揮監督シ非常急變ノ場合ニ於テ管内ノ警察官ヲ統一指揮スル事

四 管内各警察署及各警察分署ニ必要ノ警察官ヲ分配スル事

第二十九條 警部ハ判任一等乃至七等警部補ハ判任八等以下トス警部長ノ指揮監督ヲ承ケ各其主任ニ屬スル警察事務ヲ掌リ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第三十條 各府縣ニ警察本部ヲ置キ前第二十四條ニ指定スルノ外府縣廳中ノ一部トシ警部長ヲシテ其長ニ充テ部中課ヲ設ケ前第二十八條ノ事務ヲ掌理セシム

第三十一條 府縣内各郡區ニ警察署一箇所ヲ置キ警察署ノ下其部内ニ於テ警察分署ヲ記置シ警察署ハ警部ヲ以テ其長ニ充テ警察分署ハ便宜警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充テ部内高等警察行政警察及司法警察ヲ掌リ法律命令ノ履行ヲ監督ス其項目左ノ如シ

一 諸營業市場會社製造所度量衡教會講社說教及拜禮ニ關スル事項

二 演藝遊觀場遊藝場遊藝場徽章祭典葬儀賭博富籤其他風俗ニ關スル事項

三 船舶堤防河岸地道路橋梁渡船場鐵道電信公園車馬諸建築田野漁獵採藻ニ關スル事項

四 人命瘡傷群集喧噪銃砲火藥爆發物發火物刀劍水火災難破船遺流失物埋藏物ニ關スル事項

五 傳染病豫防消毒檢疫種痘飲食物飲料水醫療藥品家畜屠畜場墓地火葬場其他衛生ニ關スル事項

○第一類○行政法○地方官官制

六、諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付スル等ニ關スル事項

七、失踪者瘋癲者棄兒迷兒被監視者ニ關スル事項

八、政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖書及其他ノ出版ニ關スル事項

第三十二條 各警察官ハ其職權ニ依リ又ハ上官ノ命ニ依リ若クハ部長收稅長郡區長戶長及其他行政官ノ請求ニ應シ又司法警察ニ關シテハ檢察官ノ命ヲ承ケ其職務ヲ執行スヘシ

第三十三條 警察官ハ總テノ場合ニ於テ行政官又ハ司法官ノ自ラ其責任ニ當リテ警察官ニ請求ヲ爲ストキハ警察官ハ其請求ニ應スルノ義務アルモノトス

第三十四條 他府縣ヨリ警察ノ事務ニ關スル照會ハ必ス知事ヲ經ヘシ但急施ヲ要スル場合ニ於テハ警部長又ハ其事ノ執行ヲ要スル地ノ警察官ニ宛直ニ照會スルコトヲ得

第三十五條 巡查ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十六條 東京府下ノ警察及監獄ニ關スル事務ハ勅令第四十二號警視廳官制ニ依リ本令中ノ條項ニ指定スル限ニアラス

郡區

第三十七條 每郡若クハ數郡ニ郡長一人每區ニ區長一人及書記官若干人ヲ置ク

第三十八條 郡區長ハ奏任四等以下書記ハ判任三等以下トス

第三十九條 郡區長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス

第四十條 郡區長ハ法律命令ヲ以テ委任シ及知事ヨリ特ニ分任スル條件ハ便宜施行シテ後知事ニ報告スルヲ得

第四十一條 郡長ハ行政事務ニ就テ其部内町村ノ戶長ヲ指揮シ其公同事務ニ就テハ之ヲ監督ス

第四十二條 郡區長ハ郡區書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス

第四十三條 郡區長ハ法律命令クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付部内一般ニ告示スルコトヲ得

第四十四條 郡區長ハ部内ノ行政處分ニ關シ警察官ニ請求シテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十五條 郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ分掌ス

島地

第四十六條 長崎縣鹿兒島縣其他今後指定セラルヘキ府縣ニ特ニ島司ヲ置キ部内行政事務ヲ掌理シ知事ノ委任スル條項ハ便宜之ヲ施行スルコトヲ得

第四十七條 島司ハ奏任三等以下トス

○第二章 官等俸給

○第一款 高等官及俸給

▲明治十九年三月勅令第六號

朕茲ニ高等官官等俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第六號

高等官官等俸給令

官等及叙任

第一條 高等官ヲ分テ勅任官奏任官トス

第二條 勅任官中親任式ヲ以テ叙任スル官ノ辭令書ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣又ハ首坐ノ大臣之ニ副署ス

第三條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除ク外勅任官ヲ分テ二等トス其辭令

書ハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ奉行ス

第四條 奏任官ヲ分テ六等トス其任官ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各省ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第五條 奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ宣行ス

第六條 各官同等内ノ順序ハ任官ノ前後ニ依ル

第七條 勅任官又ハ奏任官ノ官等内ニ於テ特ニ官等ヲ限ルコトヲ要スルモノハ各別ニ之ヲ定ム

第八條 内閣及各省中ノ局長ハ奏任官一等又ハ二等トシ局次長ハ現任局長ノ次等以下トス

第九條 同一ノ官名ニシテ等差アルモノハ每等人員ヲ定メ内閣總理大臣ノ認可ヲ受クヘシ其每等ノ定員變更ヲ要スルトキモ亦同シ

俸給

第十條 勅任奏任文官ノ年俸ハ別表ニ依ル

第十一條 陸海軍武官ノ年俸ハ從前定ムル所ニ依ル

第十二條 議官交際官領事貿易事務官判事檢事理事地方官教官技術官ノ類其特ニ定ムル俸給ハ前條ノ外トス

第十三條 奏任官ノ年俸ハ各應俸給定額内及其官等年俸ノ等級ニ依リ事

○第一類 ○行政法 ○高等官々等及俸給

務ノ繁簡ニ從ヒ各大臣便宜之ヲ増減スルコトヲ得

陞叙及特例

第十四條 官等ハ五年ヲ踰ユルニアラサレハ陞叙スルコトヲ得ス

第十五條 每等人員ヲ定ムルノ官ハ五年ヲ踰ユルモ闕員アルニアラサレハ陞叙スルコトヲ得ス

第十六條 局長ノ闕員ニ依リ局次長ヲ以テ其闕ヲ補フコトヲ要スルトキハ第十四條ノ例ニ依ラズ

第十七條 各大臣秘書官ノ進退ハ第十四條第十五條ノ例外トス

第十八條 勅任官ハ本令ノ外勅旨ヲ以テ特ニ其年俸ヲ増給スルコトアルヘシ

第十九條 奏任官一等ニシテ上級俸ヲ受ケタル者勞績拔群顯著ナルハ内閣ノ上奏ニ依リ特旨ヲ以テ勅任官二等ノ下級俸ヲ給スルコトアルヘシ

第二十條 奏任官他ノ官廳ニ涉ルノ兼官ハ兼ヌル所ノ俸給三分ノ一以內ヲ増給スルコトヲ得

第二十一條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ年俸三分ノ一ヲ其遺族ニ給ス其非職者ニ於テモ亦同

同官廳ニ於ケル兼官ハ俸給ノ多額ニ就キ之ヲ給ス

第二十二條 本令中俸給ニ關スル細則ハ大藏大臣其省令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

別表

勅任官	奏任官					
	一等	二等	三等	四等	五等	六等
内閣總理大臣	九千六百圓	上五千圓 下四千五百圓	上三千圓 中貳千八百圓 下貳千六百圓	貳千四百圓	千八百圓	千貳百圓
各省大臣	六千圓	上五千圓 下四千五百圓	中貳千八百圓 下貳千六百圓	貳千四百圓	千八百圓	千貳百圓

○第二款 宮内省勅奏官官等俸給

▲明治十九年二月十五日宮内省達號外 省院廳府縣

宮内省勅任奏任官員ノ官等及年俸ヲ改定スルコト左ノ如シ

奉勅

第一條 内大臣宮内大臣ノ年俸ハ六千圓トス

第二條 侍從長以下ノ官等及年俸ハ左ノ表ニ依ル

○第一類 ○行政法 ○宮内省勅奏官々等俸給

勅任一等	侍從長	五千五百圓
宮中顧問官	四 千 圓	
宮内次官	上五千圓	
	下四千五百圓	
式部長官	上四千圓	
	下三千五百圓	
皇太后宮大夫	上四千圓	
	下三千五百圓	
皇后宮大夫	上四千圓	
	下三千五百圓	
勅任二等		
宮中顧問官	三千五百圓	
宮内次官	上四千圓	
	下三千五百圓	
式部次官	上三千圓	
	下二千七百圓	
掌典長	上二千四百圓	
	下二千百圓	
大膳大夫	上三千圓	
	下二千五百圓	

内藏頭	上四千圓	
	下三千五百圓	
主殿頭	上三千五百圓	
	下三千圓	
圖書頭	上三千五百圓	
	下三千圓	
内匠頭	上三千五百圓	
	下三千圓	
主馬頭	上三千五百圓	
	下三千圓	
御料局長官	上三千五百圓	
	下三千圓	
侍醫局長官	四 千 圓	
侍 醫	上四千圓	
	下三千八百圓	
華族局長官	上三千圓	
	下二千五百圓	
親王家別當	上三千圓	
	下二千五百圓	
奏任一等		
書記官	上三千圓	
	中二千八百圓	
	下二千六百圓	

○第一類○行政法○宮内省勅奏官々等俸給

秘書官	侍從	式部官	掌典	皇太后宮亮	皇后宮亮	大膳亮	內藏權頭	主殿權頭
上二千圓 中二千八百圓 下二千六百圓	上二千六百圓 中二千四百圓 下二千二百圓	上二千六百圓 中二千四百圓 下二千二百圓	千八百圓	上二千四百圓 中二千二百圓 下二千圓	上二千四百圓 中二千二百圓 下二千圓	上二千二百圓 下二千圓	上二千圓 中二千八百圓 下二千六百圓	上二千六百圓 中二千四百圓 下二千二百圓

○第一類○行政法○宮內省勅奏官々等俸給

圖書權頭	內匠權頭	主馬權頭	諸陵頭	御料局主事	侍醫	調度局長	華族局主事
上二千六百圓 中二千四百圓 下二千二百圓	上二千六百圓 中二千四百圓 下二千二百圓	上二千六百圓 中二千四百圓 下二千二百圓	上二千六百圓 中二千四百圓 下二千二百圓	上二千六百圓 中二千四百圓 下二千二百圓	上二千六百圓 中二千四百圓 下二千二百圓	上二千六百圓 中二千四百圓 下二千二百圓	上二千六百圓 中二千四百圓 下二千二百圓

奏任二等	書記官	秘書官	侍從	式部官	掌典	內藏助	主殿助	圖書助
上二千四百圓	上二千四百圓	上二千四百圓	上二千圓	上二千四百圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓
中二千二百圓	中二千二百圓	中二千二百圓	中二千圓	中二千二百圓	中二千圓	中二千圓	中二千圓	中二千圓
下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓
上二千四百圓	上二千四百圓	上二千四百圓	上二千圓	上二千四百圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓
中二千二百圓	中二千二百圓	中二千二百圓	中二千圓	中二千二百圓	中二千圓	中二千圓	中二千圓	中二千圓
下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓
上二千四百圓	上二千四百圓	上二千四百圓	上二千圓	上二千四百圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓
中二千二百圓	中二千二百圓	中二千二百圓	中二千圓	中二千二百圓	中二千圓	中二千圓	中二千圓	中二千圓
下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓	下二千圓

內匠助	主馬助	諸陵權頭	御料局主事	侍醫	華族局主事	奏任三等	書記官
上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓
中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓
下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓
上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓
中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓
下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓
上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓	上二千圓
中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓	中千八百圓
下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓	下千六百圓

○第一類○行政法○宮内省勅奏官々等俸給

秘書官	侍從	式部官	掌典	內藏權助	主殿權助	圖書權助	內匠權助	匠師
上 千八百圓 中 千六百圓 下 千四百圓	上 千四百圓 中 千二百圓 下 千百圓	千二百圓	九百圓	上 千八百圓 中 千六百圓 下 千四百圓	上 千四百圓 中 千二百圓 下 千百圓	上 千四百圓 中 千二百圓 下 千百圓	上 千四百圓 中 千二百圓 下 千百圓	俸給ハ別ニ之ヲ定ム

主馬權助	諸陵助	御料局主事補	侍醫	調度局次長	華族局主事補	奏任四等	書記官
上 千四百圓 中 千二百圓 下 千百圓	上 千四百圓 中 千二百圓 下 千百圓	上 千四百圓 中 千二百圓 下 千百圓	上 千四百圓 中 千二百圓 下 千百圓	上 千八百圓 中 千六百圓 下 千四百圓	上 千二百圓 中 千百圓 下 千圓	奏任四等	上 千二百圓 中 千百圓 下 千圓

秘書官	侍從	式部官	掌典	匠師	諸陵權助	御料局主事補	侍醫	華族局主事補
上二千二百圓 中千一百圓 下千圓	上九百圓 中九百圓 下八百圓	九百圓	六百圓	俸給ハ別ニ之ヲ定ム	上九百圓 中八百圓 下七百圓	上九百圓 中九百圓 下八百圓	上二千二百圓 中千一百圓 下千圓	上九百圓 中八百圓 下七百圓

家令	奏任五等	侍從試補	式部官	掌典	雅樂師長	匠師	家令	奏任六等	侍從試補	內豎	式部官	掌典	雅樂師副長	匠師	家令
九百圓		上八百圓 中七百圓 下六百圓	六百圓	五百四十圓	俸給ハ別ニ之ヲ定ム	俸給ハ別ニ之ヲ定ム	八百圓		五百五十圓	上四百圓 中三百圓 下二百五十圓	五百四十圓	四百八十圓	三百六十圓	俸給ハ別ニ之ヲ定ム	七百圓

○第一類○行政法○宮内省勅奏官々等俸給

▲明治十九年二月宮内省達第二號
 華族女學校職員及官等俸給ヲ改定スルコト左ノ如シ
 奉 勅

第一條 華族女學校ニ左ノ職員ヲ置シ

長 學 監
 幹 事
 教 授
 助 教
 書 記

- 第二條 長一人勅任トス宮内大臣ノ命ヲ受ケ學校ノ事ヲ總理ス
- 第三條 學監二人奏任トス長ノ命ヲ受ケ教授及校中ノ事務ヲ監督ス
- 第四條 幹事二人奏任トス長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ幹理ス
- 第五條 教授ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル
- 第六條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ助ク
- 第七條 書記ハ判任トス長及幹事ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス
- 第八條 女學校職員等級及俸給ハ左ノ表ニ依ル

長 勅任	學監奏任	幹事奏任	教授奏任	助教判任	書記判任
年俸	同	同	同	同	月俸
圓三千	圓千八百	圓七百	圓千八百	圓四百	圓二十五
圓二千五百	圓千五百	圓六百	圓千五百	圓三百五十	圓十五
	圓千二百	圓四百	圓千二百	圓二百	圓十二
			圓千	圓二百	
			圓九百		
			圓八百		
			圓七百		
			圓六百		
			圓五百		
			圓四百		

○第二款 賞勳局職員官等俸給

▲明治十九年三月勅令第拾號

朕内閣賞勳局職員及官等年俸ヲ裁可ス

御 名 御 璽

勅令第拾號

内閣賞勳局職員及官等年俸

第一條 賞勳局ニ左ノ職員ヲ置シ

○第一類○行政法○賞勳局職員官等俸給

總裁 一人

勅任 一等

副總裁 一人

勅任 二等

書記官 二人

奏任自一等至四等

屬

判任

第二條 總裁副總裁及書記官ノ年俸ハ左ノ如ク定ム

總裁 四千圓

副總裁 三千圓

書記官

奏任一等 上貳千四百圓

奏任二等 下貳千貳百圓

奏任三等 上貳千圓

奏任四等 下千八百圓

奏任四等 上千貳百圓

下千圓

○第四款 元老院諸官官等俸給

▲明治十九年三月勅令第拾貳號

朕元老院議長副議長議官書記官ノ官等年俸ノ改正ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第十二號

元老院議長副議長議官書記官官等年俸

議長 五千圓

勅任 五千圓

副議長 四千圓

勅任一等 四千圓

議官 三千五百圓

勅任一等 三千五百圓

議官 三千圓

勅任二等 三千圓

○第一類○行政法○元老院諸官々等俸給

書記官	奏任一等	上貳千四百圓
書記官	奏任二等	下貳千貳百圓
書記官	奏任三等	上貳千圓
書記官	奏任四等	下千八百圓
		上千六百圓
		下千四百圓
		上千貳百圓
		下千圓

第五款 陸軍海軍武官官等

▲明治十九年四月勅令第三拾七號

朕茲ニ陸軍海軍武官ノ官等ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第三十七號

陸軍海軍武官官等

第一條 陸軍海軍大將ハ親任式ヲ以テ叙任スルノ官トシ中將ハ勅任一等少將及相當官ハ勅任二等トス

第二條 陸軍海軍大佐ハ奏任一等中佐ハ奏任二等少佐ハ奏任三等大尉ハ奏任四等中尉ハ奏任五等少尉ハ奏任六等トス佐官尉官ノ相當官亦同シ

第三條 陸軍准士官下士ノ官等ハ判任一等ヨリ四等ニ至リ海軍准士官下士ノ官等ハ判任一等ヨリ五等ニ至ル

第六款 無任所外交官俸給

▲明治十九年四月勅令第三十三號

朕茲ニ無任所外交官ノ年俸ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第三十三號

一 無任所外交官ノ年俸ヲ定ムルコト左ノ如シ

特命全權公使	勅任一等	自貳千二百圓
辦理公使	勅任二等	至三千圓
代理公使	奏任一等	自千七百圓
公使館參事官	奏任一等	至貳千三百圓
		自千四百圓
		至千七百圓
		自千四百圓
		至千七百圓
		自千四百圓
		至千七百圓

○第一類 ○行政法 ○陸軍海軍武官々等 ○無任所外交官俸給 二百五十一

公使館書記官 奏任二等 自千二百圓 至千四百圓

公使館書記官 奏任三等 自千二百圓 至千二百圓

公使館書記官 奏任四等 自九百圓 至千二百圓

公使館書記官 奏任五等 自五百圓 至千二百圓

公使館書記官 奏任六等 自三百圓 至五百圓

交際官試補 奏任五等 自五百圓 至七百圓

交際官試補 奏任六等 自三百圓 至五百圓

一無任所外交官外務省參事官ニ兼任セブレタルトキハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依リ其年俸ヲ支給ス

○第七款 裁判官檢察官等俸給

▲明治十九年五月勅令第四十一號

朕茲ニ裁判官檢察官大審院控訴院書記官ノ年俸ヲ裁可ス

勅令第四十一號 裁判官檢察官大審院控訴院書記官年俸

第二條 裁判官檢察官大審院控訴院書記官ノ年俸ハ別表定ムル所ニ依ラ

第二條 現任裁判官及檢察官ノ年俸ハ舊ニ依リ支給ス新ニ裁判官檢察官大審院又ハ控訴院ノ書記官ニ任セラル、モノ又ハ現任ノ裁判官檢察官ノ今後官等ヲ陞敘セラル、モノハ別表定ムル所ニ依リ其年俸ヲ支給ス

別表

官等	勅任		奏任						
	一等	二等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	
年俸	上五千圓	下五千圓	上四千圓	中三千圓	下三千圓	上二千圓	中一千圓	下八百圓	九百圓
年俸	五百圓	四百圓	三百圓	二百圓	一百圓	二百圓	一百圓	二百圓	三百圓

○第八款 帝國大學職員官等

▲明治十九年三月勅令第九號

○第一類○行政法○帝國大學職員官等

朕茲ニ帝國大學ノ職員官等ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第九號

帝國大學職員官等

總長	勅任	自一等至二等
分科大學長	奏任	自一等至二等
教授頭	奏任	自一等至二等
教授	奏任	自一等至四等
書記官	奏任	自二等至六等
助教	奏任	自四等至六等
舍監	奏任	自四等至六等
書記	判任	

○第九款 技術官々等俸給

▲明治十九年四月勅令第三拾八號

朕茲ニ技術官々等俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第三十八號

技術官官等俸給令

- 第一條 各廳ニ於テ工藝技術ヲ要スルモノハ職員ノ外特ニ技術官ヲ置ク
- 第二條 技術官ヲ分テ技監技師技手トス
- 第三條 技監ハ勅任トシ技師ハ奏任トシ一等技師ヨリ六等技師ニ至リ技手ハ判任トシ一等技手ヨリ十等技手ニ至ル
- 第四條 技監技師ノ敍任奏薦辭令書同等内ノ順序定員年俸及陞叙特例ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依ル
- 第五條 技手ノ月俸ハ別表定ムル所ニ從ヒ各廳俸給定額内ニ於テ事業ノ繁簡ニ應シ便宜増減支給ス
- 第六條 技手ハ各廳ノ便宜ニ從ヒ別表技手俸給範圍内ニ於テ日給トナスコトヲ得
- 第七條 技手ノ昇等毎等ノ定員特別増俸及在官死亡者ノ賜金ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル
- 第八條 技手ノ人員ハ事業ノ繁簡ニ從ヒ本廳大臣ノ定ムル所ニ依ル但定員ノ外俸給定額内ニ於テ臨時雇員ヲ使用スルコトヲ得

○第一類○行政法○技術官々等俸給

第九條 日給ノ技手疾病ニ罹リ缺勤三十日以内ニシテ其證據明白ナルトキハ日給ノ半額ヲ給スルコトアルヘシ但公務ニ依リ傷痕シ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ本條ノ限ニアラス

第十條 日給技手ヲ定時間外ニ服業セシムルトキハ俸給定額内ニ於テ便宜加給スルコトヲ得

第十一條 日給技手ヲ除ク外總テ技術官ハ其主務ノ便宜ニ依リ其年俸又ハ月俸ノ半額ヲ給シ之ニ休職ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 技術官ニシテ休職ヲ命セラレ普通文官ノ事務ヲ兼ヌルモノハ兼官ニ就テ其年俸又ハ月俸ヲ給ス但此ノ場合ニ於テハ別ニ休職俸ヲ給セス

別表

一等技手	二等技手	三等技手	四等技手	五等技手	六等技手	七等技手	八等技手	九等技手	十等技手
上八拾圓	上七拾圓	上五拾五圓	上五拾圓	上四拾五圓	上四拾圓	上三拾五圓	上三拾圓	上貳拾五圓	上拾八圓
中七拾圓	中六拾圓	中五拾圓	中四拾五圓	中四拾圓	中三拾五圓	中三拾圓	中貳拾五圓	中貳拾圓	中拾五圓
下六拾圓	下五拾圓	下四拾五圓	下四拾圓	下三拾五圓	下三拾圓	下貳拾五圓	下貳拾圓	下拾五圓	下拾圓

第十款 高等官俸給支給細則

▲明治十九年四月大藏省令第拾二號

高等官俸給支給細則左ノ通相定ム

高等官俸給支給細則

第一條 高等官ノ年俸ハ之ヲ四分シ二月五月八月十一月ノ四期ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

第二條 俸給ノ支給ハ新任轉任増俸減俸共總テ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第三條 廢官退官及ヒ死亡ノ時ハ當月分ノ俸給ヲ支給シ日割ヲ以テ計算セス

第四條 非職廢官退官ノ者事務引繼殘務取調ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ公務ニ従事スルトキハ其間尙ホ従前ノ俸ヲ給與ス

第五條 願濟休暇旅行ノ者及ヒ私事ノ故障(自己ノ病氣ヲ除ク)ニ由リ上應セサルモノ三十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

第六條 病氣(轉地療養トモ)ニ由リ上應セサルモノ九十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス但公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ

罹リタルモノハ此限ニアラス

第七條 優恩ニ由リ賜暇休養及ヒ暑中休暇ハ第五條及ヒ第六條ノ限ニアラス

第八條 兼官ノ増俸ハ其兼任應經費ノ内ヨリ支給スルモノトス

第九條 各應俸給ノ支給ハ左ノ日割ニ依ルモノトス但休日ニ當ルトキハ順延トス

四日 内務省 外務省

五日 陸軍省 海軍省

六日 農商務省 遞信省
元老院 會計検査院

第十條 轉任ノ場合ニ於テハ發令ノ日マテ前任應ヨリ其俸ヲ支給スルモノトス

第十一條 轉任ノ時前任應ニ於テ俸給ノ過渡アルトキハ新任應ヨリ直チ之ヲ前任應ニ返付ス

第十二條 降等減俸賜暇旅行病氣其他ノ事故ニ由リ俸給ヲ追徴スヘキモノアルトキハ次期ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス

第十三條 非職ノ時其追徴スヘキ金額ハ大藏省ヨリ算キニ支給シタル官廳ニ返付シ大藏省ハ次期ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス

第十四條 會計ヲ異ニスル廳ヨリ官吏ヲ借用スルトキハ其間ノ俸給ハ日割ヲ以テ借用廳ヨリ該官吏所屬ノ廳ニ返付ス

第十五條 第五條ノ場合ト第六條ノ場合ト相續テ起ルトキ其第五條ニ始マリ第六條ニ終レハ其間通算シ九十日ノ後俸給ヲ減シ第六條ニ始マリ

第五條ニ終レハ其間通算シ三十日ノ後俸給ヲ減ス

第十六條 日割計算ノ法ハ年俸十二分ノ一ヲ以テ一箇月分トシ其月ノ現日數ニ割合計算スルモノトス

○第十一款 高等官俸給支給細則附則

▲明治十九年四月大藏省令第拾五號

高等官俸給支給細則附則左ノ通相定ム

一新官制ニ依リ本年四月一日以前ニ任官ノモノハ總テ四月一日ヨリ起算シテ年俸ヲ支給ス同日以後任官ノモノハ其當日マテ其月ノ現日數ニ依リ日割ヲ以テ舊官俸給ノ額ヲ支給シ其翌日ヨリハ新官ノ俸給ヲ支給スルコト本則第二條ニ據ル但シ前官ナキモノハ總テ任官ノ翌日ヨリ起算

シテ年俸ヲ給スルモノトス

- 一他所在勤又ハ出張ノ官吏ニシテ非職ヲ命セラレタルモノ、年俸ハ命令到達ノ日マテ在職俸ヲ支給ス
- 一他所在勤又ハ出張中廢官退官ノ時其命令到達ノ日マテハ尙ホ従前ノ俸ヲ給ス
- 一忌引ニ由リ上廳スル能ハサル場合ニ於テハ本則第五條及第六條ノ日數ニ算入セス
- 一優恩ニ由リ賜暇休養暑中休暇及暇忌引等ノ場合ト本則第五條第六條ノ場合ト連續スルトキハ其賜暇休養休暇又ハ忌引ノ日數ヲ除キ前後ノ日數ヲ計算シテ減俸スルモノトス

○第十二款 判任官々等俸給

▲明治十九年四月勅令第三拾六號

朕茲ニ判任官々等俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第三十六號

判任官々等給令

第一條 判任官ヲ分テ十等トシ一等ヨリ十等ニ至ル

第二條 判任文官ノ月俸ハ別表ニ依ル

第三條 陸海軍准士官下士ノ月俸ハ従前定ムル所ニ依ル其他特ニ定ムルモノハ前條ノ限ニアラス

第四條 判任官五等以上ハ每等在職四年六等以下ハ每等在職三年ヲ踰ユルニアラサレハ昇等スルコトヲ得ス

第五條 每等ニ定員ヲ限リ缺員アルニアラサレハ定期ヲ踰ユルト雖モ昇等スルコトヲ得ス

第六條 判任官一等ニシテ上級俸ヲ受ケ三年ヲ踰ヘタル者勞績拔群顯著ナルモノハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ハラズ漸次百圓マテ増俸スルコトアルヘシ

第七條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ月俸三箇月分ヲ其遺族ニ給ス其非職者ニ於テモ亦同シ

第八條 本令中俸給細則ハ大藏大臣其省令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

別表

判任官

○第一類○行政法○判任官々等俸給

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
上 七十五圓	五拾圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾五圓	拾貳圓
下 六拾圓									

▲明治十九年六月閣令第拾五號
三等郵便局長ハ判任官官等俸給令ニ依ラス一箇年四百圓以下ノ手當ヲ適宜支給ス

▲明治十九年六月遞信省令第拾六號
三等郵便局長手當金年額左表ノ通之ヲ定ム

三等郵便局長手當金額

官	等	七等以上	八等	九等	十等
上級	拾貳圓以上	四拾八圓	貳拾四圓	拾貳圓	
下級	六拾圓	三拾六圓	拾八圓	九圓六拾錢	

○第十三款 判任官俸給支給細則

▲明治十九年五月大藏省令第二拾號

判任官俸給支給細則左ノ通相定ム

判任官俸給支給細則

第一條 判任官ノ月俸ハ毎月左ノ日割ニ依リ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ順次繰上トス

- 二十六日 内務省 閣 大外務省
- 二十七日 陸軍省 海軍省 文部省
- 二十八日 農商務省 遞信省 農商務省 元老院 會計検査院

第二條 増俸減俸(非職減俸共)ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第三條 新任ノトキハ職務ニ就キタル當日ヨリ新官ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第四條 轉任ノトキハ前任應ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ新官ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第五條 公務ニ由リ旅行スルモノニハ第一條ノ日割ニ拘ラス翌月マテノ

○第一類○行政法○判任官俸給支給細則

俸給ヲ給與スルコトヲ得

第六條 右ニ掲ル者ノ外ハ總テ高等官年俸支給法ノ例ニ據ル

附則

一新官制ニ依リ本年五月一日以前ニ任官ノモノハ總テ五月一日ヨリ
起算シテ俸給ヲ支給シ同日以後任官ノモノハ其月ノ現日數ニ依リ
日割ヲ以テ舊官俸給ノ額ヲ支給シ新官ノ俸給ハ其翌日ヨリ起算ス
ルモノトス

○第十四款 非職官吏俸給其他諸件

▲明治十九年二月閣令第壹號

各官廳

非職官吏ノ俸給下渡住居移轉及商業ニ關シ左ノ通之ヲ定ム

第一條 凡ソ非職官吏ノ俸給ハ大藏省ニ於テ下渡スヘシ

第二條 本屬長官ハ非職官吏ノ官等俸給氏名住所及非職ノ年月日等ヲ大

藏大臣ニ通知スヘシ

第三條 非職官吏ハ本屬長官ニ届出テ本屬官廳所在ノ地ノ外ニ住居スル

コトヲ得

第四條 本屬長官前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ大藏大臣ニ通知シ大藏大

臣之ヲ地方官ニ通知シ該廳ヲ經由シテ俸給ノ下渡ヲ爲スヘシ

第五條 非職官吏移轉地ニ到着シタルトキハ其住所ヲ本屬長官及地方官

ニ届出ヘシ嗣後更ニ其住所ヲ移轉スルトキモ亦同シ

第六條 非職官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得テ商業ヲ營ムコトヲ得

▲明治十九年三月大藏省令第壹號

廳 府 縣

今般閣令第一號ヲ以テ被相定候非職俸給下渡方ノ儀ハ十九年度ヨリ當省
ニ於テ取扱フヘシ

○第十五款 廢官非職俸給支給方法

▲明治十九年四月大藏省令第十七號

今般官制改革ニヨリ廢官後非職ヲ命セラレタルモノ及非職者ノ廢官トナ
リタルモノ俸給支給法ハ左ノ項ニ據ル

一俸給ハ毎月十五日ヨリ五日以内ニ之ヲ支給ス

一退官死亡ノ時ハ其月俸給ノ全額ヲ支給ス

一更ニ任用ノモノハ其月ノ現日數ニ依リ發令ノ日マテ日割ヲ以テ非職
俸給ヲ支給ス

○第十六款 林區署判任官々等俸給

▲明治十九年六月閣令第十三號
大小林區署判任官官等俸給令ヲ定ムルコト左ノ如シ

大小林區署判任官官等俸給令

- 第一條 大小林區署判任官ノ官等俸給ハ別表ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 大小林區署判任官ノ昇等毎等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル
- 第三條 大小林區署判任官ノ昇等スルモノハ先ツ下級俸ヲ支給シ每級一年ヲ踰ユルニアラサレハ増俸スルコトヲ得ス但九圓以下ノ月俸ヲ受クルモノハ此限ニアラス

別表

官名	林務官			官名
	上	中	下	
一等	七百圓	六百圓	五百圓	判任官
二等	六百圓	五百圓	四百圓	判任官
三等	五百圓	四百圓	三百圓	判任官
四等	四百圓	三百圓	二百圓	判任官
五等	三百圓	二百圓	一百圓	判任官
六等	二百圓	一百圓	五十圓	判任官
七等	一百圓	五十圓	二十圓	判任官
八等	五十圓	二十圓	十圓	判任官
九等	二十圓	十圓	五圓	判任官
十等	十圓	五圓	二圓	判任官

營林主事			森林監守		
上	中	下	上	中	下
一等	四百八圓	四百二圓	九級	八圓	七圓
二等	四百圓	三百四圓	八級	七圓	六圓
三等	三百四圓	二百八圓	七級	六圓	五圓
四等	二百八圓	二百二圓	六級	五圓	四圓
五等	二百二圓	一百六圓	五級	四圓	三圓
六等	一百六圓	一百圓	四級	三圓	二圓
七等	一百圓	五十圓	三級	二圓	一圓
八等	五十圓	二十圓	二級	一圓	五錢
九等	二十圓	十圓	一級	五錢	二錢
十等	十圓	五圓	補書	三圓	二圓
十一等	五圓	二圓	主事	二圓	一圓
十二等	二圓	一圓	記	一圓	五錢

○第十七款 學習院職員及官等

○第一類○行政法○林區署判任官々等俸給○學習院職員及官等二百六十七

▲明治十九年六月宮内省達第八號
學習院職員及官等ヲ改定スルコト左ノ如シ

奉 敕

第一條 學習院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長

教頭

教授

幹事

寮監

醫員

助教授

書記

第二條 院長一人敕任二等トス宮内大臣ノ命ヲ承ケ院務ヲ總理シ所屬職員ヲ統督ス

第三條 教頭一人奏任トス教授ヨリ之ニ兼任シ院長ノ指揮ヲ承ケ教務ヲ整理シ教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第四條 教授ハ奏任一等以下トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第五條 幹事二人奏任四等以下トス院長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ幹理ス

第六條 寮監二人奏任五等以下トス院長ノ指揮ヲ承ケ生徒ヲ監督シ寄宿舎ヲ管理ス

第七條 醫員一人又ハ二人奏任五等以下トス院中ノ衛生及治療ヲ掌ル

第八條 助教授ハ判任一等以下トス教授ノ職掌ヲ助ク

第九條 書記ハ判任四等以下トス院長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○第十八款 地方官官等俸給

▲明治十九年七月勅令第五十五號

朕茲ニ地方官官等俸給令ヲ裁可ス

御 名 御 璽

勅令第五十五號

地方官官等俸給令

第一條 知事ノ年俸ヲ定ムル左ノ如シ

勅任二等

奏任一等

第二條 知事ハ五年ヲ踰ユルニアラサレハ其年俸ヲ増給セス

上四千五百圓

下四千圓

上三千五百圓

下三千圓

○第一類○行政法○地方官々等俸給

第三條 東京府知事ノ勅任一等ニ陞リタル場合及知事ノ叙任特例ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依ル

第四條 書記官警部長収税長郡區長ノ叙任同等内ノ順序定員年俸及陞叙特例ハ前條ニ同シ

第五條 屬典獄副典獄郡區書記監獄書記ノ俸給昇等每等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

第六條 警部警部補看守長看守副長及収税屬ノ俸給ハ別表定ムル所ニ依リ昇等每等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ前條ニ同シ

判		任		官	
官	等	一等	二等	三等	四等
警部	部	四拾五圓	四拾圓	三拾六圓	三拾貳圓
看守長				貳拾八圓	貳拾四圓
警部補				貳拾四圓	貳拾圓
看守副長				貳拾圓	一拾八圓
				一拾五圓	一拾貳圓
				一拾圓	八圓
				七圓	五圓
				四圓	三圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
				三圓	二圓
				二圓	一圓
				一圓	八圓
				八圓	五圓
				五圓	三圓
	</				

勅令第一號

公文式

第一 法律命令

第一條 法律勅令ハ上諭ヲ以テ之ヲ公布ス

法律ノ元老院ノ議ヲ經ルヲ要スルモノハ舊ニ依ル

第二條 法律勅令ハ内閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ内閣ニ提出シ總テ内閣總理大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フ

第三條 法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ニ副署シ年月日ヲ記入ス其各省主任ノ事務ニ屬スルモノハ内閣總理大臣及主任大臣之ニ副署ス

第四條 内閣總理大臣及各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ閣令又ハ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條 閣令ハ内閣總理大臣之ヲ發シ省令ハ各省大臣之ヲ發ス

第六條 閣令ハ年月日ヲ記入シ内閣總理大臣之ニ署名ス

第七條 省令ハ年月日ヲ記入シ主任大臣之ニ署名ス

第八條 各官廳一般ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定メ各廳處務細則

ハ其主任大臣之ヲ定ム

第九條 内閣總理大臣及各省大臣ノ所轄官吏及其監督ニ屬スル官吏ニ達スル訓令モ亦第六條第七條ノ例ニ依ル

第二 布告

第十條 凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但官報到達日數ハ明治十六年五月二十六日第十四號布達ニ依ル

第十一條 天災時變ニ依リ官報到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

第十二條 北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メス現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

島地ハ所轄郡役所ニ官報ノ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第十三條 法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ第十條第十一條第十二條ノ例ニ依ラス

第三 印璽

第十四條 國璽御璽ハ内大臣之ヲ尙藏ス

國璽御璽ハ親署ノ後内大臣之ヲ鈐ス

○第一類○行政法○法律命令公文式

第十五條 法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐ス

第十六條 國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事證認狀及三等以上勳章ノ勳記ハ親署ノ後國璽ヲ鈐ス

四等以下勳章ノ勳記ハ國璽ヲ鈐ス

第十七條 勅任官ノ任命ハ其辭令書ニ御璽ヲ鈐シ奏任官ノ任命ハ其奏薦書ニ御璽ヲ鈐ス

○第四章 圖書

○第一款 教科用圖書檢定條例

▲明治十九年五月文部省令第七號
教科用圖書檢定條例左ノ如ク相定ム

教科用圖書檢定條例

檢定要領

第一條 小學校師範學校若クハ中學校ノ教科用ニ充ツルニ足ルト思考スル所ノ圖書ヲ有スルモノハ文部省ニ願出テ其檢定ヲ請フコトヲ得

第二條 文部省ニ於テ檢査ノ上教科用ニ適スト認ムルトキハ免許證ヲ下付シ之ヲ公告スヘシ

第三條 檢定ヲ經タル圖書ヲ教科用圖書トシテ用ヒ得ヘキ年限ハ免許證下付ノ日附ヨリ起算シテ五箇年トス

第四條 前條ノ期限繼續ヲ請ハントスルモノ其滿期前ニ於テ追願スルトキハ更ニ檢査ノ上免許證ヲ下付スルコトアルヘシ

第五條 第一條若クハ第四條ニヨリ檢定ヲ願出ルニハ(著譯編)者出版者連署ノ願書ト共ニ該圖書及其(著述譯述編纂)旨意書ヲ添ヘ之ニ左ノ手數料ヲ付シ出スヘシ

一 小學校教科用圖書

金十圓

一 右追願

金三圓五十錢

一 師範學校
中學校 教科用圖書

金二十圓

一 右追願

金七圓

第六條 圖書檢査ノ上特ニ教育ニ有益ナルモノト認ムルトキハ文部省ヨリ其(著譯編)者ニ賞狀ヲ與フルコトアルヘシ

第七條 免許證ヲ得タル後(著譯編)者或ハ出版者轉籍轉居シ又ハ氏名ヲ變換シタルトキハ二箇月以内ニ文部省ニ届出ヘシ

第八條 免許證ヲ有スル期限中其圖書ノ版權ヲ賣買シ若クハ分版シタル

○第一類 ○行政法 ○教科用圖書檢定條例

トキハ二箇月以内ニ雙方連署ノ上文部省ニ届出ヘシ

第九條 免許證ヲ毀損紛失シタル等ノトキハ其再渡ヲ願出ルコトヲ得

第十條 免許證ヲ有スル期限内ニ於テ該圖書ニ改正増補等ヲナシ又ハ書名ヲ改メタルトキハ免許證ハ其効力ヲ失フモノトス

第十一條 無効ノ免許證ヲ使用シタルモノハ金二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條及第八條ノ届出ヲ爲サ、ルモノハ金一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

檢定手續

第十二條 教科用圖書檢定ニ關スル願書類ハ總テ出版者所在地方廳ヲ經テ文部省ニ出スヘシ

第十三條 教科用圖書檢定ヲ願出ルトキハ第一號書式ニ據リ一種ノ圖書ニ付願書ニ通該圖書二部及其(著述譯述編纂)旨意書ニ第五條ノ手數料ヲ付シテ之ヲ出スヘシ其(著述譯述編纂)旨意書ハ明瞭ニ該圖書ノ要項ヲ記スヘシ

第十四條 第四條ニヨリ追願スルトキハ第二號書式ニ據リ前條ノ手續ヲ經ヘシ

第十五條 第七條及第八條ノ場合ニ於テ届出シナストキハ免許證ノ番號日附及圖書名卷冊記號等ヲ記スヘシ

第十六條 第九條ニヨリ免許證ノ再渡ヲ願出ルトキハ第三號書式ニ據リ其理由ヲ記シテ之ヲ出スヘシ

第十七條 免許證ヲ得タルモノハ出願本人ニ於テ第四號書式ニ據リ其書物ノ見返シ若クハ圖面ノ見易キ處ニ免許證ヲ有スル間ノ年限ヲ印スヘシ

第十八條 第二條ノ免許證書式左ノ如シ

用紙 縱曲尺七寸 輪廓附文部省ノ三字渡込
横曲尺九寸

免許證

文部	圖書名	年月日出版	部冊
省印	著者 族籍 氏名	編者 族籍 氏名	校者 族籍 氏名

○第一類○行政法○教科用圖書檢定條例

右ハ檢査ノ上師範學校教科用ニ適當ナルコトヲ
認定シ明治 年 月 日ヨリ同 年 月 日マ
テ五箇年間師範學校ノ教科用書トナスコトヲ免
許ス

明治 年 月 日 文 部 省

編輯 第 號
印刷 第 號

第一號書式 願書ノ用紙ハ總テ半紙トス
教科用圖書檢定願

一 圖書名
何年何月何日出版 卷冊記號

右ハ師範學校教科用ニ充ツルニ足ルト思考候ニ付御檢定ヲ願度依テ右手
中 敷料金何圓并同圖書二部ニ旨意書相添此段相願候也

何地方廳管下
地名番地 居住 寄留
族 籍

著 者 氏 名 印
編 者 氏 名 印

年 月 日

何地方廳管下
地名番地 居住 寄留
族 籍

出版者 氏 名 印

文部大臣某殿

第二號書式
教科用圖書檢定追願

一 圖書名
何年何月何日出版 卷冊記號

右ハ何年何月何日附第何號免許證御下附相成候モノニ有之候處何年何月
何日ニテ滿期和成候ニ付テハ期限ノ繼續ヲ願度依テ右手敷料金何圓並同

第一類○行政法○教科用圖書檢定條例○出版圖書納本方 二百七十九

圖書二部相添此段相願候也

(署名其他第一號書式ノ通)

第三號書式

免許證毀損(等)ニ付再渡願

一 何年何月何日附第何號免許證

一 圖書名

卷冊記號

右免許證ハ私所有ニ有之候處何年何月何日何地ニ於テ云云ノ爲メ毀損(等)候ニ付再渡相成度此段相願候也

(署名其他第一號書式ノ通)

第四號書式 寸方大小ハ圖書ノ大小ニ準シ適宜ニスヘシ

自何年何月何日

至何年何月何日

文部省檢定濟師小範學校教科用書

○第二款 出版圖書納本方

▲明治十八年七月內務省告示第二十八號

出版圖書刻成納本之儀ハ自今當省總務局ヘ差出スヘシ此旨告示候事

但宛名ハ明治十七年(二月廿八日)甲第五號告示但書之通り

○第五章 新聞紙

○第一款 新聞紙條例

▲明治十八年七月布告第二拾壹號

明治十六年(四月)第拾二號布告新聞紙條例第三十條左ノ通改正追加ス

官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ正誤ヲ載セタルトキハ關係アル者ノ求メナシト雖モ其官報又ハ新聞紙ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ正誤スヘキコト總テ前條ノ例ニ依ル

官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ハ其官報又ハ新聞紙ノ題號并刷行ノ年月日ヲ掲載ス可シ違フ者ハ編輯人貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
右奉 勅旨布告候事

○第二款 新聞紙訴訟辨論記載方

▲明治十九年六月司法省訓令第拾號

檢事長 檢事

○第一類○行政法○新聞紙條例○新聞紙訴訟辨論記載方 二百八十一

新聞紙條例第三十三條ニ傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辯論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ストアルハ公判ノ半ヨリ傍聽ヲ禁シタル場合ト雖モ總テ其訴訟ノ當日ノ辯論ヲ記載スルコトヲ得サル儀ニシテ裁判官傍聽ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨリ以下ノ辯論ノミヲ指スモノニ非ス右ハ往々疑義ヲ生シ候向モ有之趣ニ付此旨心得ヘシ

○第六章 學制

○第一款 帝國大學令

▲明治十九年三月勅令第三號

朕帝國大學令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三號

帝國大學令

第一條 帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及其蘊奧ヲ攷究スルヲ以テ目的トス
第二條 帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ分科大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス

第三條 分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第四條 分科大學ノ卒業生若シハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入り學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ學位ヲ授與ス

第五條 帝國大學職員ヲ置ク左ノ如シ

總長 勅任

評議官

書記官 奏任

書記 判任

第六條 帝國大學總長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ帝國大學ヲ總轄ス其職掌ノ要領ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 帝國大學ノ秩序ヲ保持スル事

第二 帝國大學ノ狀況ヲ監視シ改良ヲ加フルノ必要アリト認ムル事項ハ案ヲ具ヘテ文部大臣ニ提出スル事

第三 評議會ノ議長トナリテ其議事ヲ整理シ及議事ノ顛末ヲ文部大臣ニ報告スル事

○第一類○行政法○帝國大學令

第四 法科大學長ノ職務ニ當ル事

第七條 評議會ハ便宜ニ從ヒ帝國大學若クハ文部省ニ於テ開設ス
評議會ノ議ニ付スヘキ事項左ノ如シ

第一 學科課程ニ關スル事項

第二 大學院及分科大學ノ利害ノ銷長ニ關スル事項

第八條 評議官ハ文部大臣各分科大學教授ヨリ各二人ヲ特選シテ之ニ充
ツ

第九條 評議官ハ五箇年ヲ以テ任期トス任期滿ツルノ後時宜ニ依リ更ニ
勤續ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 分科大學ハ法科大學醫科大學工科大学文科大學及理科大學トス
法科大學ヲ分テ法律學科及政治學科ノ二部トス

第十一條 各分科大學職員ヲ置ク左ノ如シ

長 奏任

敬頭 奏任

教授 奏任

助教授 奏任

舎監 奏任

書記

判任

第十二條 分科大學長ハ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス

分科大學長ハ帝國大學總長ノ命令ノ範圍内ニ於テ主管科大學ノ事務ヲ
掌理ス

第十三條 各分科大學ノ敬頭ハ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス

敬頭ハ教授及助教授ノ職務ヲ監督シ及教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌
ル

第十四條 各分科大學ノ教授助教授ノ人員ハ其學科ノ輕重及學生ノ員數
ニ應シテ別ニ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○第二款 師範學校令

▲明治十九年四月勅令第拾三號

朕師範學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十三號

師範學校令

第一條 師範學校ハ教員トナルヘキモノヲ養成スル所トス

○第一類 ○行政法 ○師範學校令

但生徒ヲシテ順良信愛威重ノ氣質ヲ備ヘシムルコトニ注目スヘキモノトス

第二條 師範學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス

第三條 高等師範學校ハ東京ニ一箇所尋常師範學校ハ府縣ニ各一箇所ヲ設置スヘシ

第四條 高等師範學校ノ經費ハ國庫ヨリ尋常師範學校ノ經費ハ地方稅ヨリ支辨スヘシ

第五條 尋常師範學校ノ經費ニ要スル地方稅ノ額ハ府知事縣令其豫算ヲ調整シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 師範學校長及教員ノ任期ハ五箇年トス滿期ノ後猶ホ繼續スルコトアルヘシ

第七條 尋常師範學校長ハ其府縣ノ學務課長ヲ兼スルコトヲ得

第八條 師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九條 師範學校生徒ノ學費ハ其學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

第十條 高等師範學校ノ卒業生ハ尋常師範學校長及教員ニ任スヘキモノ

トス但時宜ニ依リ各種ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得
第十一條 尋常師範學校ノ卒業生ハ公立小學校長及教員ニ任スヘキモノトス但時宜ニ依リ各種ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得
第十二條 師範學校ノ學科及其程度并教科書ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○第三款 中學校令

▲明治十九年四月勅令第十五號

朕中學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十五號

中學校令

第一條 中學校ハ實業ニ就カント欲シ又ハ高等ノ學校ニ入ラント欲スルモノニ須要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 中學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス高等中學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス

第三條 高等中學校ハ法科醫科工科文科理科農業商業等ノ分科ヲ設クル

○第一類 ○行政法 ○中學校令

コトヲ得

- 第四條 高等中學校ハ全國(北海道沖繩縣ヲ除ク)ヲ五區ニ分畫シ每區ニ一箇所ヲ設置ス其區域ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第五條 高等中學校ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支辨シ又ハ國庫ト該學校設置區域内ニ在ル府縣ノ地方稅トニ依リ之ヲ支辨スルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其管理及經費分擔ノ方法等ハ別ニ之ヲ定ムヘシ
- 第六條 尋常中學校ハ各府縣ニ於テ便宜之ヲ設置スルコトヲ得但其地方稅ノ支辨又ハ補助ニ係ルモノハ各府縣一箇所ニ限ルヘシ
- 第七條 中學校ノ學科及其程度ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第八條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ限ルヘシ
- 第九條 尋常中學校ハ區町村費ヲ以テ設置スルコトヲ得ス

○第四款 小學校令

▲明治十九年四月勅令第十四號

朕小學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十四號

小學校令

- 第一條 小學校ヲ分テ高等尋常ノ二等トス
- 第二條 小學校ノ設置區域及位置ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル
- 第三條 兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トシ父母後見人等ハ其學齡兒童ヲシテ普通教育ヲ得セシムルノ義務アルモノトス
- 第四條 父母後見人等ハ其學齡兒童ノ尋常小學校ヲ卒ラサル間ハ就學セシムヘシ其就學ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル
- 第五條 疾病家計困窮其他止ムヲ得サル事故ニ由リ兒童ヲ就學セシムルコト能ハスト認定スルモノニハ府知事縣令其期限ヲ定メテ就學猶豫ヲ許スコトヲ得
- 第六條 父母後見人等ハ小學校ノ經費ニ充ツル爲メ其兒童ノ授業料ヲ支辨スヘキモノトス其金額ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル
- 第七條 寄附金及其他ノ收入金アリテ小學校ノ經費ニ供スルトキハ其收入及支出ノ方法ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル
- 第八條 授業料及寄附金等ヲ以テ小學校ノ經費ヲ辨シ能ハサル場合ニ於テハ區町村會ノ議決ニ依リ區町村費ヨリ其不足ヲ補フコトヲ得

○第一類○行政法○小學校令

第九條 小學校教員ノ俸給旅費ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル

第十條 小學校資金ノ收入及支出ハ其管理者ヨリ毎三箇月府知事縣令ニ報告スヘシ

第十一條 小學校ニ屬スル資産ノ管理ニ關スル規程ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 小學校ノ學科及其程度ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 小學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ限ルヘシ

第十四條 私立學校ニ於テ小學校ト均シキ普通教育ヲ兒童ニ施サントスルモノハ豫メ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十五條 土地ノ情況ニ依リテハ小學簡易科ヲ設ケテ尋常小學科ニ代用スルコトヲ得但其經費ハ區町村費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十六條 小學簡易科教員ノ俸給ハ地方稅ヲ以テ之ヲ補助スルコトヲ得

○第五款 教育令

▲明治十八年八月布告第二十三號

明治十三年(十二月)第五十九號布告教育令別冊ノ通改正ス

但明治十四年(七月)第三十八號布告中教育令第九條トアルヲ教育令第

八條ト改メ同十五年(十二月)第五十八號布告ヲ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)教育令

第一條 全國ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統攝ス故ニ學校教場幼稚園書籍館等ハ公立私立ノ別ナク皆文部卿ノ監督内ニアルヘシ

第二條 學校ハ小學校中學校大學校師範學校專門學校其他各種ノ學校トス

第三條 小學校及小學教場ハ兒童ニ普通ノ教育ヲ施ス所トス

第四條 中學校ハ高等ナル普通學科ヲ授クル所トス

第五條 大學校ハ法學理學醫學文學等ノ專門諸科ヲ授クル所トス

第六條 師範學校ハ教員ヲ養成スル所トス

第七條 專門學校ハ法科理科醫科文科農業商業職工等各科ノ學業ヲ授クル所トス

第八條 各町村ハ府知事縣令ノ指示ニ從ヒ獨立或ハ聯合シテ其學齡兒童ヲ教育スルニ足ルヘキ一箇若クハ數箇ノ小學校又ハ小學教場ヲ設置スヘシ

但本文小學校又ハ小學教場ニ代ルヘキ私立小學校又ハ小學教場アリ

テ府知事縣令ノ認可ヲ經タルトキハ別ニ設置セサルモ妨ケナシ
第九條 凡兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

第十條 學齡兒童ヲ就學セシムルハ父母後見人等ノ責任タルヘシ

第十一條 父母後見人等ハ其學齡兒童ノ普通科ヲ卒業ラサル間己ムテ得サル事故アルニアラサレハ毎年就學セシメサルヘカラス

但就學督責ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ
第十二條 小學校及小學教場ノ學期ハ三箇年以上八箇年以下タルヘシ授業日數ハ毎年三十二週日以上タルヘシ其授業時間ハ一日三時ヨリ少カラス六時ヨリ多カラサルモノトス

但土地ノ情況ニ依リ午前若クハ午後ノ半日又ハ夜間ニ授業スルコトヲ得ヘシ其授業時間ハ二時ヨリ少カラサルモノトス

第十三條 小學校若クハ小學教場ヲ設置スルノ資力ニ乏シクシテ巡回授業ノ方法ヲ設ケ普通教育ヲ兒童ニ施サントスル町村ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十四條 學齡兒童ヲ小學校若クハ小學教場ニ入レス又巡回授業ニ依ラズシテ別ニ普通教育ヲ施サントスルモノハ戶長ノ認可ヲ經ヘシ
但戶長ハ兒童ノ學業ヲ其町村ノ小學校若クハ小學教場ニ於テ試験セ

シムヘシ

第十五條 學校教場幼稚園書籍館等ニ公立私立ノ別アリ地方稅若クハ町村ノ公費ヲ以テ設置セルモノヲ公立トシ一人若クハ數人ノ私費ヲ以テ設置セルモノヲ私立トス

第十六條 公立學校教場幼稚園書籍館等ノ設置變更廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部卿ノ認可ヲ經ヘク其町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十七條 私立學校教場幼稚園書籍館等ノ設置變更ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘク其廢止ハ府知事縣令ニ開申スヘシ

但公立小學校又ハ小學教場ニ代用スル私立小學校又ハ小學教場ノ廢止ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十八條 町村立私立學校教場幼稚園書籍館等設置變更廢止ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十九條 小學校及小學教場ノ教則ハ文部卿頒布スル所ノ綱領ニ基キ府知事縣令土地ノ情況ヲ量リテ之ヲ編制シ文部卿ノ認可ヲ經テ管内ニ施行スヘシ

中學校其他ノ學校ノ教則ハ文部卿其綱領ヲ頒布スルコトアルヘシ

○第一類 ○行政法 ○教育令

第二十條 公立學校教場ノ費用府縣會ノ議定ニ係ルモノハ地方稅ヨリ支辨シ町村ノ協議ニ係ルモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

第二十一條 町村費ヲ以テ設置保護スル學校教場ニ於テ補助チ地方稅ニ要スルトキハ府縣會ノ議定ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得ヘシ

第二十二條 公立學校教場ノ敷地ハ免稅タルヘシ

第二十三條 凡學事ニ供スル寄附金等ハ其寄附人ヨリ指定セシ目途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス

第二十四條 各府縣ハ小學教員ヲ養成センカ爲ニ師範學校ヲ設置スヘシ

第二十五條 教員ハ男女ノ別ナク年齢十八年以上ニシテ品行端正相當ノ學力アリ文部卿若クハ府知事縣令ノ免許狀ヲ得タルモノタルヘシ

第二十六條 文部卿ハ吏員ヲ府縣ニ發遣シ學事ノ實況ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

第二十七條 凡學校ニ於テハ男女教室ヲ同クスルコトヲ得ス
但小學校及小學教場ニ於テハ男女教室ヲ同クスルモ妨ケナシ

第二十八條 生徒試験ノトキハ父母或ハ後見人等來觀スルコトヲ得ヘシ

第二十九條 町村立學校教場ノ教員ハ戶長ノ申請ニ因リ府知事縣令之ヲ任免スヘシ

第三十條 町村立學校教場ノ教員ノ俸額旅費ハ府知事縣令之ヲ規定シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第三十一條 各府縣ハ土地ノ情況ニ隨ヒ中學校ヲ設置シ又農學校商業學校職工學校其他ノ專門學校ヲ設置スヘシ

▲明治十八年八月文部省達第八號 府 縣

自今町村立學校ニ於テハ授業料ヲ徵收セシムヘキモノトス其額及徵收ノ方法等ハ府知事縣令ニ於テ其程度ヲ取調ヘ當省ヘ伺出ヘシ此旨相達候事

▲明治十八年八月文部省達第七號 府 縣

自今府縣立學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘキモノトス其額及徵收ノ方法等ハ當省ヘ伺出ヘシ此旨相達候事

○第六款 諸學校通則

▲明治十九年四月勅令第拾六號
朕諸學校通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

勅令第十六號

諸學校通則

第一條 師範學校ヲ除クノ外各種ノ學校又ハ書籍館ヲ設置維持スルニ足ルヘキ金額ヲ寄附シ其管理ヲ文部大臣又ハ府知事縣令ニ願出ルモノアルトキハ之ヲ許可シ官立又ハ府縣立ト同一ニ之ヲ認ムルコトヲ得但寄附人ノ望ニ依リ其名稱ヲ附スルコトヲ得

第二條 寄附金ハ其寄附人ヨリ指定セシ用途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス
第三條 學校幼稚園書籍館等ノ設置變更廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ヘク其區町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ其私立ニ係ルモノハ設置變更ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘク廢止ハ府知事縣令ニ上申スヘシ

第四條 凡教員ハ文部大臣若クハ府知事縣令ノ免許狀ヲ得タルモノタルヘシ
第五條 公立學校ノ用地ハ免稅タルヘシ

○第七款 小學校教員免許規則

▲明治十九年六月文部省令第拾貳號

勅令第十六號諸學校通則第四條ニ基キ小學校教員免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教員免許規則

第一條 小學校教員免許狀ハ師範學校卒業生及丁年以上ニシテ小學校教員學力檢定試験ニ及第シタルモノニ之ヲ授與スルモノトス

第二條 小學校教員免許狀ハ普通免許地方免許狀ノ二種トス

第三條 普通免許狀ハ文部大臣ヨリ授與シ全國ニ通シテ有效ノモノトス
第四條 地方免許狀ハ府知事縣令ヨリ授與シ其管轄地方ニ限り有效ノモノトス

第五條 普通免許狀ハ無期有效ノモノトス

第六條 地方免許狀ハ有期若クハ無期有效ノモノトス

第七條 有期ノ地方免許狀ハ五箇年ヲ以テ一期トス期滿ル毎ニ勤務ノ經歷ニ依リ適任ノモノト認ムルトキハ更ニ免許狀ヲ授與スルモノトス

第八條 有期ノ地方免許狀ヲ有シ五箇年以上勤務ノモノニハ其經歷ニ依リ適任ノモノニ限り無期ノ地方免許狀ヲ授與スルモノトス

第九條 普通免許狀ハ高等師範學科卒業生若クハ地方免許狀ヲ有シテ五箇年以上勤務シ學術授業トモ超衆ノモノニ之ヲ授與スルモノトス

第十條 有期ノ地方免許狀ハ尋常師範學科卒業生若クハ小學校教員學力檢定試験ニ及第シタルモノニ之ヲ授與スルモノトス

第十一條 小學校教員學力驗定試験ハ尋常師範學科及其程度ニ據リテ之ヲ施行スヘシ

但一科若クハ數科ニ限リタル教員學力驗定試験モ本文ニ準スヘシ

第十二條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノニハ免許狀ヲ授與セス又既ニ授與シタルモノト雖モ之ヲ沒收スヘシ

但本文免許狀ヲ沒收シタルモノアルトキハ府知事縣令ヨリ其族籍姓名并事由ヲ具シテ文部大臣ニ開申スヘシ

一 新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレタルモノ

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムル

コト能ハスシテ輕禁錮ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

一 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ

一 身代限ノ處分ヲ受ケ未ダ辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ

一 荒飢暴激等總テ教員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ

一 舊法ニ依リ懲役若クハ禁錮若クハ鎖錮ノ刑ニ處セラレタルモノ

但贖金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ

此限リニアラス

一 前項ノ刑ニ處セラレ存留養親老小癡疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ聽サレタルモノ

第十三條 前條ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノト雖モ府知事縣令ニ於テ特ニ小學校教員ヲラシメントスルトキハ其族籍姓名並事由ヲ具シテ文部大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第十四條 小學簡易科教員及小學校授業生免許規則ハ府知事縣令之ヲ定ムヘシ

第十五條 小學校教員學力驗定試験ヲ受クルモノ及小學校教員免許狀ヲ受クルモノハ其手数料ヲ納ムヘシ

第十六條 小學校教員學力驗定試験ニ係ル細則ハ府知事縣令之ヲ定ムヘシ

第十七條 小學校教員免許狀ノ書式左ノ如シ
有期免許狀書式

地方免許狀

族籍

姓 名
何年何月生
右ハ明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日マテ五箇
年間小學校(何科)教員タルコトヲ免許ス

明治何年何月何日 府知事縣令位勳爵姓名印

番號

無期免許狀書式

地方免許狀

族 籍
姓 名
何年何月生

右ハ小學校(何科)教員タルコトヲ免許ス

明治何年何月何日 府知事縣令位勳爵姓名印

番號

普通免許狀

族 籍
姓 名
何年何月生

右ハ小學校(何科)教員タルコトヲ免許ス

明治何年何月何日 文部大臣位勳爵姓名印

番號

▲明治十九年六月文部省令第十三號
文部省令第十二號小學校教員免許規則發令前ニ於テ授與シタル小學校教
員免許狀ハ從前ノ通有效ノモノトス
但小學初等科免許狀ヲ有スルモノハ小學簡易科小學中等科免許狀ヲ有
スルモノハ尋常小學校以下小學高等科免許狀ヲ有スルモノハ高等小學
科以下ノ教員タルコトヲ得

○第八款 小學簡易科要領

▲明治十九年五月文部省訓令第壹號

北海道廳府縣

小學簡易科ハ左ノ要領ニ依リ土地ノ情况ヲ考ヘ其教則ヲ定ムヘシ

小學簡易科要領

一 修業年限 三箇年以内タルヘシ

一 學科 讀書作文習字算術

一 學級 兒童六十人以下ノ場合ニ於テハ學級ヲ分ツコトヲ得ス其
他ハ尋常小學校ニ準ス

一 授業時間 毎日二時ヨリ少カラス三時ヨリ多カラス

但算術授業時間ハ授業時間總數ノ半以上タルヘシ

○第九款 小學教場設置方法

▲明治十八年十一月文部省達第拾貳號 府 縣

小學教場ハ小學校ヨリ簡易ナル教則ヲ以テ普通科ヲ教授スル所ニシテ左

ノ情况アル場合ニ之ヲ設置スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

一 半日又ハ夜間ニ非サレハ就學スルコト能ハサル兒童多數ナリト認ムル
場合

一 授業料ヲ納ムルコト能ハサル兒童多數ナリト認ムル場合

一 小學校ヲ設置スルニ資力不足ナリト認ムル場合

○第七章 會議

○第一款 將官會議條例

▲明治十八年九月海軍省達丙第四十八號 海軍一般

海軍將官會議ヲ設置シ其條例左ノ通相定ム此旨相達候事

海軍將官會議條例

第壹條 將官會議ハ海軍ニ關スル重要ノ事件ヲ審議スル所トス

第貳條 將官會議ハ海軍卿議長トナリ其他職員ハ左ノ如シ

幹事 壹人

議員 若干人

書記 若干人

第三條 幹事議員ハ將官ヲ以テ之ニ補ス但時宜ニ依リ大佐中佐ヲ以テ議

員ニ補スルコトアリ

第四條 書記ハ上長官士官ヲ以テ之ニ補ス但時宜ニ依リ七等以上ノ文官

ヲ以テ之ニ充ツルコトアリ

第五條 幹事ハ會議ノ事務ヲ幹理シ議案ノ調査ヲ擔任ス又開議ノ時ハ議

○第一類 ○行政法 ○小學教場設置方法 ○將官會議條例

員ニ列スルモノトス

第六條 幹事ハ各廳長其他ノ者ニ臨時出頭ヲ求ムルヲ得

第七條 議員ハ議長ノ指揮ニ從ヒ議案ヲ審議スルヲ任トス若シ議長缺席スルキハ議員中先任ノ將官其議事ヲ整頓ス

第八條 議員ハ第一條ノ事件ニ關シ意見アルキハ二人以上ノ賛成ヲ得テ議長ニ之ヲ建議スルヲ得

第九條 書記ハ幹事ノ命ヲ受ケ會議ノ事務ヲ掌理シ議席ニ於テ議案ヲ朗讀シ議事ヲ筆記シ及ヒ議案ノ起草ヲ爲ス

第十條 凡ソ議案ハ海軍卿ヨリ下附シ或ハ其命ヲ受ケ本會ニ於テ起草スルモノトス

第十一條 議案ノ事項ニ依リ海軍卿ハ各廳長其他上長官以上ノ武官及ヒ同等文官ヲ臨時議席ニ列セシメ諮問ニ應セシムルヲアル可シ但各廳長ハ議長ノ許可ヲ得部下主任官ヲシテ諮問ニ應セシムルヲ得

第十二條 決議ノ事項ト雖モ海軍卿異見アルキハ其事由ヲ説明シ再議ニ附スルヲアル可シ

第十三條 本會ハ各廳等ヨリ要用ノ書類ヲ求ムルヲ得

○第二款 兵器會議條例

▲明治十八年九月海軍省達丙第四十九號

海軍一般

海軍兵器會議ヲ設置シ其條例左ノ通相定ム此旨相達候事

海軍兵器會議條例

第一條 兵器會議ハ兵器及ヒ火料火具劇發藥等ノ利害得失ヲ審議スル所トス

第二條 兵器會議ニ於テ審議スヘキ事項ハ左ノ如シ

第一 各種砲銃水雷其他ノ兵器及ヒ之ニ屬スル諸器械ノ利害

第二 各種火料火具劇發藥彈丸ノ利害

第三 兵器及ヒ火藥ニ係ル諸工場ノ新築并ニ存廢ノ當否

第四 第一項第二項ニ係ル考按ノ得失

第三條 常ニ他邦ノ兵器彈藥火具等ノ種類及ヒ其製造法ニ注目シ之カ得失ヲ研究スルヲモ亦此會議ノ任トス

第四條 兵器會議ノ職員ハ左ノ如シ

議長 壹人

幹事 壹人

副幹事 壹人

議員 若干人

書記 若干人

第五條 議長ハ將官議員ハ七等以上ノ武官及ヒ技術官書記ハ八等以下ノ武文官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 議長ハ議員ヲ統率シテ議事ヲ整頓シ會議ノ事務ヲ總理ス

第七條 幹事副幹事ハ議員中ノ者ヲ以テ之ニ兼任シ會議ノ事務ヲ幹理シ議案ノ起草調査ヲ擔任ス

第八條 議員ハ議長ノ指揮ニ從ヒ議案ヲ審議スルヲ任トス若シ議長缺席スルハ議員中先任ノ者其議事ヲ整頓ス

第九條 本會ニ於テ議案ヲ起草スルハ臨時議員中ノ若干ヲ選テ委員トシ之ヲ負擔セシムルコトアル可シ

第十條 書記ハ幹事ノ命ヲ受ケ會議ノ事務ヲ掌理シ議席ニ於テ議案ヲ朗讀シ議事ヲ筆記ス又議案ノ起草ニ從事セシムルコトアル可シ

第十一條 凡ソ議案ハ海軍卿ヨリ下附シ又ハ其許可ヲ得本會ニ於テ起草スルモノトス

第十二條 議案ヲ議スルハ其主任者ヲシテ出席セシメ議案ノ趣旨ヲ辨明セシム可シ

第十三條 議案ノ事項ニ依リ議長ヨリ各廳長ニ照會シテ主任者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第十四條 會議ニ於テ議定セシモノハ議長其事由ヲ具シテ海軍卿ニ呈ス可シ

第十五條 會議ハ議定スルヲ本務トシ其施行スルト否トニハ干涉スルコトヲ得ス

第十六條 本會ハ各廳等ヨリ要用ノ書類ヲ求ムルコトヲ得

第十七條 議案ニ就キ兵器彈藥其他試験ヲ要スルハ本會ニ於テ之ヲ試験スルコトヲ得而シテ之レカ爲メ模範ノ製造又ハ器具材料等ヲ要スルハ其筋ノ各廳ニ就テ之ヲ求ムヘシ但別段ニ費用ヲ要スルモノハ豫メ入費ヲ計算シ海軍卿ノ許可ヲ得可シ

第十八條 本會ニ於テ前條ニ掲クル試験ノ爲メ一時人員ヲ要スルハ其所屬ニ就キ之ヲ求ムルコトヲ得

○第三款 造船會議條例

▲明治十八年九月海軍省達内第五拾號 海軍一般

海軍造船會議ヲ設置シ其條例左ノ通相定ム此旨相達候事

○第一類○行政法○造船會議條例

海軍造船會議條例

第壹條 造船會議ハ造船及ヒ重要ナル需用品等ニ關スル利害得失ヲ審議スル所トス

第貳條 造船會議ノ審議ス可キ事項ハ左ノ如シ

第壹 艦船ノ構造及ヒ機裝ノ利害

第貳 汽機汽罐ノ利害

第三 艦砲水雷彈藥庫等裝置ノ得失

第四 造船場修船場等ノ新設及ヒ存廢ノ當否

第五 艦船存廢ノ當否

第六 重要ナル需用品ノ利害

第七 艦船ノ改造新設等ニ係ル考案ノ得失

第三條 常ニ他邦艦船ノ種類及ヒ其製造法ニ注目シ之カ得失ヲ研究スル

トモ亦此會議ノ任トス

第四條 造船會議ノ職員ハ左ノ如シ

議長 壹人

幹事 壹人

副幹事 壹人

議員 若干人

書記 若干人

第五條 議長ハ將官議員ハ七等以上ノ武官及ヒ技術官書記官ハ八等以下ノ武文官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 議長ハ議員ヲ統率シテ議事ヲ整頓シ會議ノ事務ヲ總理ス

第七條 幹事副幹事ハ議員中ノ者ヲ以テ之ニ兼任シ會議ノ事務ヲ幹理シ議案ノ起草調査ヲ擔任ス

第八條 議員ハ議長ノ指揮ニ從ヒ議案ヲ審議スルヲ任トス若シ議長缺席スルハ議員中先任ノ者其議事ヲ整頓ス

第九條 本會ニ於テ議案ヲ起草スルハ臨時議員中ノ若干ヲ選テ委員トシ之ヲ負擔セシムルヲアル可シ

第十條 書記ハ幹事ノ命ヲ受ケ會議ノ事務ヲ掌理シ議席ニ於テ議案ヲ朗讀シ議事ヲ筆記ス又議案ノ起草ニ從事セシムルヲアル可シ

第十一條 凡ソ議案ハ海軍卿ヨリ下附シ又ハ其許可ヲ得本會ニ於テ起草スル者トス

第十二條 議案ヲ議スルハ其主任者ヲシテ出席セシメ議案ノ趣旨ヲ辨明セシム可シ

○第一類 ○行政法 ○勸業諮問會規則心得

第拾三條 議案ノ事項ニ依リ議長ヨリ各廳長ニ照會シテ主任者ノ出席ヲ求ムルヲ得

第拾四條 會議ニ於テ議定セシモノハ議長其事由ヲ具シテ海軍卿ニ呈ス可シ

第拾五條 會議ハ議定スルヲ本務トシ其施行スルト否トニハ干涉スルヲ得ス

第拾六條 本會ハ各廳等ヨリ要用ノ書類ヲ求ムルヲ得

○第四款 勸業諮問會規則心得

▲明治十九年一月農商務省達第壹號 府 縣

明治十六年(七月)當省第八號達第十五項左ノ通改正候條此旨相達ス

第十五項施行ノ後本省へ報告スヘキ件

諮問會員ノ人名

開會ノ筆記

勸業委員ノ人員

名會設置ノ位地及名稱

已上ニ關スル諸費用ノ豫算決定額

▲明治十九年二月農商務省達第四號

府 縣

明治十六年(七月)當省第八號達第一項中其三以下左ノ通更正ス

三 農商工水産山林鑛山ノ利害及改良保護ニ關スル事

四 農商工水産山林鑛山ニ關スル統計ノ事

○第五款 警察衛生會規則

▲明治十九年二月內務省達甲第六號 廳府縣

明治十五年(六月)番外達警察聯合會規則及十六年(三月)番外達府縣聯合衛生會規則ヲ廢ス

○第八章 租稅

○第一款 地租徵收期限

▲明治十八年六月布告第十五號

明治十四年(二月)第十四號布告地租徵收期限第三期以下左ノ通改正ス

三期	該年十一月一日ヨリ	田方
同	十二月十五日限	二分五厘
四期	同 十二月十六日ヨリ	同
同	翌年一月二十五日限	二分五厘

○第一類 ○行政法 ○警察衛生會規則 ○地租徵收期限 ○北海道物產出港稅則 三百十一

五期同	一月二十六日ヨリ	同	二分五厘
三期同	三月三十一日限	同	二分五厘
六期同	四月一日ヨリ	同	二分五厘
	四月二十日限		

右奉 勅旨布告候事

○第二款 北海道物産出港税則

▲明治十八年八月布達第十九號
 北海道諸産物出港税則並各港船改所規則第二條中膽振國室蘭郡室蘭港船改所ヲ廢シ更ニ左ノ三ヶ所へ船改派出所ヲ増設ス
 後志國余市郡余市 天鹽國留萌郡鬼鹿 北見國利尻郡利尻
 右布達候事

▲明治十八年十二月布達第二十一號
 北海道諸産物出港税則並各港船改所規則第二條中渡島國上磯郡石別千島國振別郡振別ノ兩船改派出所ヲ廢シ更ニ左ノ二箇所へ船改派出所ヲ設置ス
 後志國久遠郡久遠

千島國紗那郡紗那
 右布達候事

○第三款 租税未納者處分法

▲明治十八年七月布告第二十號
 ▲明治十年(十一月)第七十九號布告第二條左ノ通改正ス
 第二條 營業税又ハ製造税ヲ上納セサル時ハ其營業ヲ停止ス其製造品アル者ハ之ハ公賣シ次ニ其器物ニ及ホスヘシ
 酒類及醬油造石税ハ前項ニ依テ處分シ仍ホ其製造用ノ諸建物ヲ公賣スルコトヲ得
 但酒類醬油及其製造用諸器物建物ハ自他ノ所有ヲ問ハズ其一部又ハ全部ヲ公賣シテ徵收ス
 右奉 勅旨布告候事

○第四款 諸税不納者處分方

▲明治十八年六月大藏省達第三十五號 府 縣
 ▲明治十六年(九月)第五十九號達中公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハ右
 ○第一類○行政法○租税未納者處分法○諸税不納者處分方 三百十三

期限後四十五日以内ノ十字ヲ(該稅決算期限六十日以前)ノ十一字ニ改メ
右相達候事

○第五款 預リ米取扱手續

▲明治十八年八月大藏省達第五十二號

府 縣 (北海道三縣沖
繩縣ヲ除ク)

明治十年(十一月)當省乙第三十九號達預リ米取扱手續左ノ通改正ス
但明治十二年(九月)當省乙第三十五號達ハ廢止ス

右相達候事

預リ米取扱手續

- 第一條 預リ米ハ地租第三四五六納期ニ於テ各其半額迄ヲ納金抵當トシ
テ該町村ノ上米ヲ預ルモノトス但代米納テ許可スルルキハ其員額ニ對ス
ル分ハ預リ米ヲ許可セズ
- 第二條 預リ米ハ十一月二十日迄ニ願出テタル者ニ限り許可スヘシ
- 第三條 預リ米ヲ許可スルハ地租改正ニ用ヒタル米價ヨリ時價下落ノ時
ニ限ルヘシ
- 第四條 時價ヲ算出スルハ管内ヲ適宜ニ區分シ相場立ノ箇所ヲ定メ置キ

該年十月十二日ヨリ十一月十日マテノ間其地ノ上米平均相場ヲ用フヘ
シ但區畫及其相場立箇所ハ豫メ主稅局ヘ届出ヘシ

第五條 預リ米ハ前項ニ掲ケタル相場ヲ以テ計出シ得ル所ノ米額ニ一割
ヲ加ヘタルモノヲ藏置セシムヘシ

第六條 俵拵并俵入等ハ渾テ代米納同様タルヘシ但合米ハ加フルニ及ハス

第七條 預リ米ヲ藏置スヘキ場所ハ府縣廳ニ於テ各町村預ケ高ノ多寡ヲ
豫算シ一郡内適宜ニ指定シ集蓄セシムヘシ但藏敷及看守人給料其他一
切ノ費用ハ預ケ人ノ負担トス

第八條 藏入期限ハ十二月十五日限ト定メ郡吏戸長預ケ主總代一名立
會封印スヘシ但郡吏ハ適宜巡村ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ通告シ必ス期限
内ニ完了スヘシ

第九條 預リ米換金期限ハ左ニ記載セル三期トス此期日迄ニ納金セサル
キハ郡吏戸長立會其期ニ當ル預リ米ヲ競賣スヘシ

一第三期預リ米 三月十五日限

一第五期預リ米 四月二十日限

一第六期預リ米 五月十五日限

○第一類○行政法○預リ米取扱手續

第十條 前項競賣代金税額ニ滿タサルハ直チニ其不足金ヲ徵收ス若シ納メザルハ一般ノ租税不納處分規則ニ據リ處分スヘシ

第十一條 預ケ主ニ於テ預リ米ヲ賣却セシムコトヲ請フモノアルキハ其時々之ヲ許シ各立會買却ノ上其代金ハ直チニ收入シ藏出セシムヘシ

第十二條 預リ中水火盜難又ハ欠減等ニ罹リ損失ヲ生スルコトアルモ預主ニ於テ補償ノ責ニ任テヘシ

第十三條 預リ米アル地所他ノ事故ニ因リ公賣ノ處分ニ係ルキハ其預リ米アルニ拘ハラテ當期ノ税金ヲ完納セシムヘシ但此場合ニ於テハ預リ米ヲ還附スヘシ

第十四條 預リ米ヲ許可スルニ方リテハ前二項ニ開示セル條件ヲ承諾セシメ請書ヲ領收スヘシ

第十五條 許可シタル預リ米ノ員額及其金額ハ一郡役所限リ取調十二月十五日迄ニ主税局ヘ届出ヘシ

○第六款 府縣徵稅費取扱方

▲明治十八年八月大藏省達第五拾五號

府縣 沖繩 札幌 根室 三縣ヲ除ク

今般第五拾四號ヲ以テ徵稅費取扱方相達候ニ付テハ該費會計主務ニ於テ現金管守順序ニ依リ收支取扱フ可シ
右相達候事

(參看)明治十八年八月第五十四號ハ第一類第二章第四十二款ニ掲出ス

○第七款 國税金收納報告書式

▲明治十八年六月大藏省達第三拾三號

府縣 北海道 三縣 沖繩 三縣ヲ除ク

明治十七年(六月)第四拾壹號達國税金收納順序第拾二條但書ヲ刪除シ同條ニ屬スル報告書式同附錄第三項及右ニ屬スル報告書式左ノ通更正ス
右相達候事

第十號 (用紙美濃梓紙) (大科目限リ別紙ニ調製スヘシ)

明治何年度

收納申報書

第何號

高金何程

第何期又ハ前後半期

○第一類○行政法○府縣徵稅費取扱方○國税金收納報告書式三百七十七

一金何程

何租稅(前同)前(後)半期

是ハ何々(前同)ニ付當期延納ノ職稟申中ノ分

合金何程

右之通候也

年月日

府(縣) 稅長 宛

郡(區) 長姓名印

○第八款 諸免許料及手数料收納順序

▲明治十八年七月農商務省達第三拾壹號

府 縣

當省所管諸免許料及手数料收納順序別冊ノ通相定メ明治十九年度ヨリ施行候條此旨相達候事

但從前諸達シ納此順序ニ抵觸スルモノハ本文施行ノ日ヨリ總テ廢止ス(別冊)

諸免許料及手数料收納順序

第一條 農商務省所屬ノ免許料及手数料ハ此順序ニ據リ府縣廳ニ於テ徵收シ當省ヘ送納スルモノトス

第二條 各年度ノ豫算ハ第一號書式ニ據リ明細書ヲ調製シ前年度五月五

日迄ニ其地ヲ發シ當省ヘ差出スヘシ

第三條 米商會所及株式取引所仲買人認許料ハ納人ヨリ第二號書式ノ納金證書ヲ以テ上納セシメ之レニ第三號書式ノ上納證ヲ添ヘ五日以内ニ當省ヘ送納スヘシ

第四條 (明治十八年九月本省達第三拾八号改正) 專賣免許料商標登錄手数料及獸醫免許料ハ納人ヨリ第三條ノ手續ニ據リ上納セシメ當省ヨリ下附ナル特許證願書指令登錄證及免狀到達ノ上第三號書式ノ上納證ヲ添ヘ五日以内ニ當省ヘ送納スヘシ

第五條 第四條料金ノ内事故アリテ返附スヘキ場合ニ於テハ其現金預ケ入レノ月日納人ノ姓名等ヲ國庫金取扱所ヘ通知シ納金證書ハ納人ニ下戻シ現金ヲ受取テシムヘシ

第六條 收入豫算ノ増減ハ第四號書式ニ據リ報告書ヲ調製シ翌月三日迄ニ其地ヲ發シ當省ヘ差出スヘシ
但増減無之月ハ其旨届出ヘシ

第七條 (明治十八年九月本省達第三拾八號改正) 前各條ノ料金ハ認許證特許證登錄證免狀ノ日附 專賣特許條例附則ニ係ルモノハ願書指令ノ日付及專賣特許商標共讓與分與ハ證書裏書ノ日附ヲ以テ會計年度ヲ區分スヘシ

○第一類○行政法○免許料手数料借區稅取扱順序

第八條 各年度所屬ノ料金ヲ完納シタルキハ直チニ第五號書式ノ皆濟帳
ヲ調製シ當省へ差出スヘシ
(書式略)

○第九款 免許料手數料借區稅取扱順序

▲明治十九年五月農商務省訓令第五號 北海道廳 府縣

當省所管免許料手數料鐵山借區稅取扱順序左ノ通相定メ明治十九年度ヨ
リ施行ス

但從前諸達ノ内此順序ニ抵觸スルモノハ廢止ス

免許料手數料鐵山借區稅取扱順序

第一條 免許料手數料鐵山借區稅ハ北海道廳府縣廳ニ於テ之ヲ徵收スル
モノトス但取扱順序ハ明治十九年(三月)大藏省令第四號歲入取扱順序
ニ據ル

第二條 各年度ノ豫算ハ左ノ書式ニ據リ明細書ヲ調製シ前年度五月五日
迄ニ其地ヲ發シ當省へ差出スヘシ

第三條 前條豫算ノ認可ヲ得タルトキハ歲入取扱順序第十七號乙書式ニ
據リ月額豫算表ヲ調製シ七日以内ニ之ヲ當省へ差出スヘシ

第四條 收入金年度編入方ハ明治十七年(十二月)大藏省第九十號達ニ據ル

第五條 報告書ハ左ノ期日迄ニ其地ヲ發シ當省へ差出スヘシ
歲入報告書 翌月五日
會計年度内徵收未濟報告書 翌年度四月五日
出納閉鎖前不納報告書 翌年度十二月十日
(書式略)

○第十款 租稅官損及勘定除却取扱方

▲明治十八年六月大藏省達第三拾四號 府 縣

租稅ノ内官損及勘定除却ヲ要スル金額稟申方ノ儀明治十六年(八月)第五
拾五號ヲ以テ相達置候處右ハ相廢シ更ニ取扱方左ノ通相定ム

- 一 租稅不納ノ者財産公賣處分ノ末官損下ナリタル金額ハ全管取束左
ノ書式ニ倣ヒ調理シ毎稅納期後四十五日以内ニ稟申スヘシ
- 一 荒地成檢査中又ハ非常ノ災害ニ罹リ備荒儲蓄金ヨリ補助或ハ貸與取
調中ノ類ニシテ納期ニ際シ徵收シ能ハサル分ハ其調査完了時日ノ見
込相立該稅納期以前延納ノ義ヲ稟申スヘシ
- 一 戶長役場ニ取集メタル稅金水火盜難其他ノ事故ニヨリテ生シタル缺
額ニ對シ補填請求中ノ分該稅決算期限六十日以前ニ出納局仕拂切符

○第一類○行政法○租稅官損及勘定除却取扱方○國稅臺帳書式三百三十三

到達セサル片ハ其年度ノ勘定除却ヲ稟申スヘシ
右相達候事 (書式略ス)

○第十一欸 國稅臺帳書式

▲明治十八年九月大藏省達第六拾四號

府 縣 沖繩縣
ヲ除ク

國稅(地租ヲ除ク)臺帳樣式別冊之通り相定候條實際ノ便宜ニ從ヒ漸次右
ニ準據調製スヘシ

但別冊ハ主稅局ヨリ送附ス
右相達候事

(別冊略之)

○第十二欸 地方稅支辨條件

▲明治十九年一月內務省達甲第壹號

警視廳府縣

陸海軍軍法會議ニ於テ輕重懲役及ヒ剝官ヲ附加シタル禁錮ノ刑若クハ普
通刑法ニ依リ懲役禁錮ノ處斷ヲ受ケ官職ヲ失ヒ軍籍ヲ除カレタル囚徒ニ
係ル費用ハ來ル二十年度以降軍法會議所在地方ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘ

但從前陸海軍々律ニテ處斷セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ明治十四年三
月第十七號公布ニ依リ區分シ陸海軍刑法ニテ徒刑流刑禁獄ノ刑ニ處セ
ラレタル囚徒ニ係ル費用ハ國庫費ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ベシ
右相達ス

○第十三欸 地方稅送納代人

▲明治十八年六月內務大藏兩省達第二拾九號

府 縣

土地所有者ニシテ其土地所在ノ戶長役場所轄内ニ居住セサルキハ地租地
方稅備荒儲蓄金區町村費ヲ納ムル爲メ代人ヲ定メ土地所轄ノ戶長役場へ
届置カシムヘシ
右相達候事

○第九章 兵事

○第一欸 徵兵徵集ニ属スル件

▲明治十八年九月陸軍省達甲第四拾貳號

府 縣 沖繩 札幌 根室
三縣ヲ除ク

○第一類 ○行政法 ○地方稅支辨條件 ○地方稅送納代人 ○徵兵 三百二十五
徵集ニ属スル件 ○徵兵徵集猶豫ニ属スル件

正當ノ故少徴集ニ應セズ若シハ徴集ニ洩レ年齢三十三歳ヲ超過シ發覺
ノ者ハ其時々當省へ經伺ノ上處分致來候處自今年齡滿四十歳迄ハ經伺ヲ
要セズ徴集スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○第二款 徴兵徴集猶豫ニ屬スル件

▲明治十八年九月陸軍省達甲第三拾八號

府縣 沖繩札幌根室
三縣ヲ除ク

軍用電信技手服役中徴兵相當ノ節ハ徴集猶豫ニ屬スル儀ト可心得此旨相
達候事

但本文ニ當ル者ハ徴兵令第三十五條ハ屆書ニ辭令書寫ヲ添ヘ爲差出徴
兵事務條例第七書式其二第十八書式其二名簿ハ騰記スヘシ

○第三款 徴兵事務執行條件

▲明治十八年十二月陸軍省達甲第四拾八號

府縣 沖繩札幌根室
三縣ヲ除ク

明治十七年第十八號布達徴兵事務條例中明文ナク徴兵事務執行上差支候
モノハ是迄當省へ伺出來候處自今所管鎮臺ニ協議ハ上取計スヘシ此旨相
達候事

但別途費用ヲ要スルキモノハ豫メ主務省へ伺出ヘシ

▲明治十九年五月陸軍省令甲第十六號

北海道廳 府縣 沖繩縣
ヲ除ク

豫備後備兵ノ點呼召集ハ本籍地方ニ於テ施行スヘキ筈ノ處學術修業若ク
ハ商業等ノ爲メ他府縣へ寄留ノ者ハ本人ノ願ニ由リ寄留地ノ點呼召集ニ
應スルコトヲ得

○第四款 徴兵旅費定則

▲明治十八年七月大藏省達第四拾貳號

府縣 沖繩札幌根室
三縣ヲ除ク

明治十五年三月陸軍省達甲第六號徴兵入費定則十八年度限り相廢シ徴兵
旅費定則左ノ通相定メ來十九年度ヨリ施行ス

徴兵旅費定則

第一條 檢丁及呼出ニ係ル檢丁ノ父兄並ニ抽籤總代人檢査所又ハ抽籤場
ヘノ旅費ハ往復六里旅行ヨリ一里ニ付金貳錢五厘ヲ割合テ以テ之ヲ給
ス其支給方法ハ一檢査所又ハ一抽籤場毎ニ打切リ一里未滿ノ端數ハ切
棄トス若シ同所ニ滞在セシムルキハ滞在日當金貳拾貳錢ヲ給ス
第二條 檢丁若クハ呼出ニ係ル父兄癡疾不具等ニテ保護人ヲ要セサレ

○第一類 ○行政法 ○徴兵事務執行條件 ○徴兵旅費定則

ハ検査所ニ出頭シ難キ場合ニ於テ該保護人ニ給スル旅費並滞在日當額ハ前條ニ據ル

第三條 檢丁若クハ呼出ニ係ル父兄癡疾不具等ニシテ歩行シ難キモノハ第一條旅費日當ノ外一里ニ付金七錢ノ割ヲ以テ車駕賃ヲ給ス

第四條 新兵入營ノ旅費ハ三里以上ヨリ一里ニ付金四錢ノ割ヲ以テ給シ若シ滞在セシムルハ滞在日當金貳拾八錢ヲ給シ其附添人ハ一般旅費定則ニ據リ支給ス

第五條 新兵入營途中川留雪支船待若クハ病氣等ニテ延滞ノキハ其地郡區長又ハ戸長ノ證明書及醫師ノ診斷書アル者ハ滞在日當ヲ給ス又疾病足痛等ニシテ歩行シ難ク車駕ヲ雇ヒタルトキハ醫師ノ診斷書及ヒ通運會社等ノ受取證書アル者ニ限り其車駕賃ヲ給ス

但車駕賃ノ申請ニハ入營附添人ノ證明書其附添人ナキ場合ハ沿道戸長ノ證明書ヲ付スヘシ

第六條 各廳ノ便宜ニヨリ此定則中ノ給額ヲ減少スルハ適宜タルヘシ

▲明治十八年六月海軍省乙第七號

府縣 沖繩札幌根室

海軍徵兵入費ニ係ル事務自今大藏省ニ於テ主管候條右ニ係ル件ハ同省ニ

可申出此旨相達候事

▲明治十八年八月海軍省達第六拾號

府 縣

徵兵検査ノ節醫師又ハ一時雇ノ者出張申付該出張先ニ於テ便宜解雇スルキハ該地ヨリ最初採用ノ節本人居住ノ地迄旅費支給スヘシ
右相達候事

○第五款 海軍志願兵徵募規則

▲明治十八年六月布達第拾三號

明治十六年(十二月)第三拾八號布達海軍志願兵徵募規則別冊ノ通改正ス
右布達候事

(別冊)

海軍志願兵徵募規則

第一條 海軍兵員ヲランコトヲ志願スル者ハ本則ニ照シテ之ヲ徵募ス但軍樂隊ハ別ニ規則ヲ設ク

第二條 志願兵ノ服役ヲ別ナテ現役及ヒ豫備役トス

現役年期ハ長期ヲ十個年短期ヲ七個年トス

豫備役ハ現役長期ヲ終リシ者ヲシテ二個年間短期ヲ終リシ者ヲシテ五

○第一類○行政法○海軍志願兵徵募規則

個年間のニ服セシム

徴兵令ニ依リ服役スル海軍諸兵及ヒ海軍工夫ニシテ志願兵ニ轉スル者ノ服役年數ハ前後ヲ通算ス

第三條 志願兵職名ノ大別ハ左ノ如シ

水兵、火夫、職工、看病夫、厨夫

第四條 水兵火夫ニ徵募スル者ハ年齢十七歳以上二十五歳未満ニシテ體格強壯身幹五尺以上トス

第五條 水兵火夫ノ年齢ハ第四條ニ掲クル如シト雖モ左ニ掲クル者ハ出願スルコトヲ得

一年齡十五歳以上十七歳未満ニシテ體格非常ニ強壯身幹四尺九寸以上ノ者但十七歳ニ滿タサレハ服役年數ニ算入セス

二年齡二十五歳未満且體格強壯身幹五尺以上ニシテ西洋形船舶ニ從事シ水夫火夫ノ業ヲ操リシ者

三年齡二十五歳未満且體格強壯身幹五尺以上ニシテ商船學校ノ卒業證書ヲ所持シ或ハ海員免狀ヲ所持スル者

第六條 職工看病夫ニ徵募スル者ハ其職ニ熟セルモノニシテ體格強壯年齢ハ十九歳以上二十五歳未満トシ厨夫ニ徵募スル者ハ體格強壯ノモノ

ニシテ年齢ハ十九歳以上三十五歳未満トス

第七條 豫備役ニ入ル者ニハ其證書ヲ附與シ常ニ家居シテ産業ヲ營マシメ戰時或ハ事變ニ際シ之ヲ召集ス

第八條 現役ヲ終リ尙三箇年以上ノ再役ヲ出願スル者ハ之ヲ許可ス但現役十二年ニ滿ル者ハ豫備役ニ服セシメス

第九條 現役中技藝ニ熟達シ行狀方正且才氣アル者ハ之ヲ拔擢シテ下士ニ任ス

第十條 現役中ハ食料被服ヲ官給シ且相當ノ日給ヲ與フ

第十一條 現役中ハ家族アル者ニ限り其扶助金トシテ一個年金拾圓宛ヲ給ス

第十二條 服役年期中ハ現役豫備役ヲ論ゼス何等ノ事故アルモ免役出願ヲ許サス

第十三條 現役年期已ニ滿ル者ト雖モ戰時若クハ事變ノ際或ハ航海中ハ其期ヲ延スコトアル可シ此場合ニ於テハ其延期日數ヲ豫備役年期ヨリ除算ス

第十四條 徵募ノ地方及ヒ其人員等ハ徵募ヲ要スルトキ豫メ海軍卿ヨリ其地方廳ニ達シ志願人ヲ調査セシム

○第一類○行政法○海軍志願兵徵募規則

第十五條 (明治十九年三月海軍省令第二號改正) 地方廳徵募ノ達ヲ受ケ

タルトキハ本籍寄留ノ別ナク志願人員ヲ海軍省ニ届出可シ

第十六條 志願人ハ父兄其他親族或ハ後見人ヲ以テ身元引受人ト爲ス可

シ然レトモ居住ノ地ニ親族或ハ後見人ナキトキハ其地ニ本籍アリ身元

正確ナル者ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第十七條 身元引受人ハ第一號書式ノ願書ニ志願人ノ履歷書ヲ添ヘ管轄

地方廳ニ差出シ該廳ハ其願書正副共ニ巡回募兵使ニ出ス可シ

第十八條 左ニ掲グル者ハ出願スルコトヲ許サス

一 刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

二 公權停止中ノ者

三 重罪ノ刑ニ處セラレタル者

第十九條 左ニ掲グル者ハ志願スルコトヲ得ス

一 陸軍諸兵ノ豫備役後備兵役ニ在ル者及ヒ先入兵タル者

二 陸軍兵ノ補充員タル者

三 徵兵令ニ依リ徵集シタル海軍現役兵及ヒ先入兵タル者

第二十條 募兵官員及ヒ其職務ハ左ノ如シ

募兵使

海軍下士或ハ十一等以下ノ軍屬ヲ以テ之ニ充ツ募兵使ニ從ヒ諸記錄

ノ事ヲ掌ル

第二十一條 地方長官ハ屬官ヲシテ管内兵員徵募ノ事務ヲ補助セシム可

シ

第二十二條 郡區長及ヒ戶長ハ其郡區町村內兵員徵募ニ關スル事ヲ掌ル

可シ

第二十三條 募兵使ハ府縣屬官及ヒ郡區長ト商議シ豫メ検査ノ場所及ヒ

日割人員等ヲ定メ戶長ヲ經テ志願人ニ出頭ヲ命ス可シ

第二十四條 志願人ノ検査ハ府縣屬官或ハ郡區長ノ立會ヲ要ス但郡區長

事故アルトキハ其書記ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第二十五條 検査合格ノ者ニハ募兵使ヨリ立會ノ府縣屬官或ハ郡區長ヲ

第一類〇行政法〇海軍志願兵徵募規則

三百三十二

海軍佐官或ハ大尉ヲ以テ之ニ充ツ府縣ニ派出シテ兵員徵募ノ事務ヲ

掌ル

募兵醫官

海軍軍醫ヲ以テ之ニ充ツ募兵使ニ從ヒ志願人ノ身幹體格ヲ検査スル

事ヲ掌ル

募兵書記

海軍下士或ハ十一等以下ノ軍屬ヲ以テ之ニ充ツ募兵使ニ從ヒ諸記錄

ノ事ヲ掌ル

第二十一條 地方長官ハ屬官ヲシテ管内兵員徵募ノ事務ヲ補助セシム可

シ

第二十二條 郡區長及ヒ戶長ハ其郡區町村內兵員徵募ニ關スル事ヲ掌ル

可シ

第二十三條 募兵使ハ府縣屬官及ヒ郡區長ト商議シ豫メ検査ノ場所及ヒ

日割人員等ヲ定メ戶長ヲ經テ志願人ニ出頭ヲ命ス可シ

第二十四條 志願人ノ検査ハ府縣屬官或ハ郡區長ノ立會ヲ要ス但郡區長

事故アルトキハ其書記ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第二十五條 検査合格ノ者ニハ募兵使ヨリ立會ノ府縣屬官或ハ郡區長ヲ

第一類〇行政法〇海軍志願兵徵募規則

三百三十二

シテ第二號書式ノ採用證書ヲ附與セシム

第二十六條 検査合格ノ者ニ採用證書ヲ附與シタルトキハ戸長ヨリ第三號書式ノ本人戸籍明細書ヲ出サシム

第二十七條 寄留地ニ於テ採用スル者ハ募兵使ヨリ其旨本籍ノ地方廳ニ通知シ該廳ハ本人所管ノ戸長ヲシテ第二十六條ニ掲クル戸籍明細書ヲ出サシメ募兵使或ハ鎮守府ニ送付ス可シ

第二十八條 採用ノ兵員ハ募兵使携帶ノ誓約簿ニ各自記名捺印ス可シ

第二十九條 合格ノ者所要ノ人員ニ超過スルトキハ抽籤法ヲ以テ當籤者ヲ採用ス

第三十條 抽籤ハ各自ニ之ヲ行ハシムルモノトス但便宜ニ因リ一名乃至三名ヲ抽籤總代ト爲スコトヲ得

第三十一條 検査呼出ニ際シ病氣或ハ父母ノ重病等ノ爲メ一時出頭シ難キ者或ハ之カ爲メ願書却下ヲ請フ者ハ其事實ヲ詳記シ戸長ノ證印ヲ受ケ郡區長ヲ經テ募兵使ニ申出其處分ヲ受ク可シ

第三十二條 徵募ノ兵員各地發程ノ期限ハ募兵使ヨリ達ス可シ府縣屬官或ハ郡區長ハ府縣或ハ郡區毎ニ其兵員ヲ便宜ノ場所ニ集合セシメ附添人一名若クハ二名ヲ附シ同時ニ發程セシム可シ

第三十三條 疾病其他已ムヲ得サル事故ニテ發程シ難キ者ハ其事實ヲ詳記シ(疾病者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ)戸長ノ證印ヲ受ケ郡區長ヲ經テ募兵使或ハ鎮守府ニ届出可シ而シテ其事故止ムトキハ郡區長ニ届出郡區長ハ鎮守府ニ届出速ニ發程セシム可シ

第三十四條 第三十二條ニ掲クル附添人旅費并ニ徵募兵員各自居住ノ地ヨリ入營迄ノ旅費ハ一般徵兵ノ定則ニ照準シ官費ヲ以テ支給ス但志願人検査ノ場所ニ往復并ニ滞在等ノ費用ハ總テ自辨タル可シ

第三十五條 現役中公務ニ因リ傷痍疾病ヲ受ケ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ海軍恩給令ニ照準シテ相當ノ恩給ヲ與フ

第三十六條 現役中傷痍疾病ニ罹ル者ハ海軍病院ニ入レ治療セシメ若シ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ免役ノ上旅費ヲ給シ歸郷セシム但服役實期十一年以上ノ者ハ第三十五條ニ同シ

第三十七條 現役中父母ノ重病或ハ一家ノ安危ニ係ル等非常ノ事故アリ一時已ムヲ得スシテ父母又ハ親族等ヨリ其事實ヲ詳記シ(疾病ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ)戸長ノ與書證印ヲ受ケ本人ノ所轄廳ニ願出ルトキハ詮議ノ上往復ヲ除キ二週日以内ノ歸省ヲ許ス旅費ハ自辨タル可シ但二等若水兵若火夫ハ本文ノ限ニ在ラス

第三十八條 (明治十九年三月海軍省令第二號改正) 臨時志願兵ノ補闕員 (年期中ノ者ノ闕ヲ補充スルモノヲ云フ) ヲ要スルトキハ募兵使ヲ派遣セシメ鎮守府ニ於テ徵募スルコトヲ得
第一號書式 (用紙美濃紙)

海軍兵員願

何府何國何郡何町何番地 寄留者ハ寄留地モ
何縣何國何郡何村何番地 明細ニ記ス可シ

華士族平民

何某男或ハ弟又ハ何々

何年何月何日於何國何郡何町何村生 何 某

年齡何年何月何年何ヶ月

右ノ者何個年期海軍水兵(火夫或ハ何々)志願ニ付御檢査ノ上御採用相成候様其筋ニ御申立被下度此段奉願候也

何府何國何郡何町何番地
何縣何國何郡何村何番地

華士族平民

右何某父或ハ兄又ハ何々

年月日 身元引受人 何 某 印

前書之通相違無之候也

右戶長

何 某 印

何府知事 何某殿
何縣 令

前書願出ニ付本人檢査ノ上御取捨有之度候也

年月日 何府知事 何 某 印
何縣 令

海軍募兵使

御中

第二號書式

何府何國何郡何町何番地
何縣何國何郡何村何番地

華士族平民

何某男或ハ弟又ハ何々

何 某

右何個年期ヲ以テ海軍水兵(或ハ何々)ニ採用候事

海軍募兵使

海軍何官 何 某 印

年月日

○第一類○行政法○海軍志願兵徵募規則

第三號書式

戶籍明細書

本管族籍

氏名 肩書ニ戸主カ二三男カ
養子カ明記スヘシ

出生ノ年月日

生國地名

本籍住所

寄留住所 全戸カ單身カ
明記スヘシ

家族人名及其誕辰 父母妻子兄弟等全戸ノ者總テ之ヲ記ス
但父母ノ實養ヲ詳ニス可シ

父氏 名 母 名 兄氏 名 弟氏 名
何年何月何日生 何年何月何日生 何年何月何日生 何年何月何日生

姉 名 妹 名 其他右ニ準ス
何年何月何日生 何年何月何日生

前書之通相違無之候也

年月日

右戸長 何 某印

第十章 軍事

第一款 徵發事務條例

▲明治十九年五月閣令第拾壹號

明治十五年(十二月)第貳拾六號布達徵發事務條例中左ノ通改正刪除シ同
條例附錄第三號第五號及第七號雛形ヲ改正シ第四號雛形ヲ廢ス

第二十一條 郡區長ハ附錄第三號一ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ之ヲ
府縣廳ニ差出スヘシ

第二十二條 刪除

第二十三條 刪除

第二十四條 府知事縣令ハ附錄第三號二三ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製
シ郡區長ヨリ差出シタル表ト共ニ每年三月三十一日限り陸軍省ヘ送付
スヘシ

第二十五條 府知事縣令ハ附錄第五號一二ノ雛形ニ依リ船舶汽船表ヲ製
シ毎年三月三十一日限り海軍省ヘ送付スヘシ但其管内ニ於テ新タニ構
造シ若クハ買入タル汽船アル時ハ第五號三ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ
其時々同省ヘ送付スヘシ

附錄第三號ノ一

○第一卷 ○行政法 ○徵發事務條例

郡區	品目	何府(縣)	
		何郡	何郡
石	玄米		
石	大麥		
石	小麥		
石	裸麥		
石	鹽		
石	醬油		
合計			

一本表物産ハ其年中ニ收穫セシ總數ヲ記載スヘシ
 一醬油ハ其年中中國稅徵收ノ檢査ヲ爲シタル高ヲ記載スヘシ
 一本表一郡區ニ纏メ計算スルノ際ニ當リ其計數ハ四拾五人ノ法ヲ用ヒ石位ニ止ムヘシ

附錄第五號ノ一

船 舶 表

每年十二月三十一日調

何府(縣)

國 名	郡 區 名	郡 區 役 所 在 街 市 村 名	戶 長 役 場 在 所 村 名	定 繫 ノ 港 灣 名 稱 (其 中 一 部 村 名)	西 洋 形 船 隻	日 本 形 船 隻	倉 庫	水 田	水 災 豫 備
何	何	何 區 何	何 町	何 港	汽 船	帆 船	上 石 以 回 舟 海 川 小	船 庫 用 船	船 備
何 村	何 町	何 同	何 河	何 灣					

○第一類○行政法○徵發事務條例

免狀番號	一〇三八	登簿噸數	何千何百何十噸
買入代價	何万何千何百圓	用方	郵船旅客船石炭船挽船港內使用船等
運航港津	何港ヨリ何々ヲ經テ何港マテ或ハ何港何港間		
一晝夜費炭	何百何十斤	石炭貯量	何万何千斤
一晝夜油費	何升	一晝夜脂費	何斤
荷積機械之數及力	何箇	一箇何噸	
蒸溜水機械一晝夜蒸溜量	何噸		
運轉手定員	何人	機關手定員	何人
水夫定員	何人	火夫定員	何人
自餘乘組定員	事務掛リ何人賄夫何人等積荷ノ量何百何十噸		

附錄第七號

何郡(區)何市場		平均物價表		何府(縣)	
何郡(區)何市場		平均物價表		何府(縣)	
何郡(區)何市場		平均物價表		何府(縣)	
種類	平均價	何年	何年	何年	自何年至何年三箇年
玄米	壹石	圓	圓	圓	圓
精米	壹石				
鹽	壹石				
味噌	壹貫目				
醬油	壹石				
漬物	四斗樽入壹樽				
梅干	四斗樽入壹樽				
大麥	壹石				

○第一類○行政法○徵發事務條例

小麥	壹石																			
裸麥	壹石																			
秣藜	壹貫目																			
松薪	壹貫目																			
堅薪	壹貫目																			
炭	壹貫目																			
石炭	壹噸																			
藥	壹貫目																			

備考

○各種類共其品質數等アルヲ以テ各上中下三等ノ價ヲ平均ス
 ○漬物ハ澤庵漬トス

○第十一章 驛 遞

○第一款 驛傳營業取締ノ件

廳府縣

▲明治十九年四月遞信省令第三號
 驛傳營業取締人ノ儀ハ該營業人ノ撰定ニ任スヘキ等ノ處地方ノ狀況ニ依
 リ其制ニ準據シ難キ時ハ事情ヲ具シ指揮ヲ得テ其制ヲ異ニスルヲ得

○第十二章 郵便

○第一款 郵便條例

▲明治十九年二月布告第四號

明治十五年(十二月)第五拾九號布告郵便條例第十六條及第二百十四條中
 左ノ通改正ス

第十六條

第一項ヲ改メ左ノ二項トナス

一 毒藥、劇藥、爆發、燃焼シ易キ物品

一 流動物、流動腐敗シ易キ物、解化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子
 器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ郵

○第一類 ○行政法 ○驛傳營業取締ノ件 ○郵便條例

便局若クハ郵便受取所ノ承認ヲ受ケタル後郵便ニ差出スモノハ此限ニアラス

第二百十四條

第三項ヲ改メ左ノ二項トナス

一流動物、流動腐敗シ易キ物、解化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品

一第十六條第一項第二項及第四項ニ記載シタル物品

奉勅

▲明治十九年四月遞信省告示第二拾七號

貯金ニ關シ驛遞局ニ差出スヘキ書類ハ貯金申告書ヲ除クノ外左表ノ區別ニ從ヒ貯金課又ハ其出張所ヲ經由スヘシ

遞信管理區名	受持課所名
東京名古屋新瀉仙臺福島山形	驛遞局第四部貯金課
長野函館	大阪貯金課出張所
大阪九龍岡山金澤松江	赤間關貯金課出張所
赤間關熊本	

右告示ス

▲明治十九年六月遞信省告示第六十四號

郵便局ノ貯金取扱ヲ停止シ又ハ貯金預所ヲ廢停シタルトキハ其局所ニ於テ發行シタル貯金通帳ヲ所持スルモノハ本年四月當省第二十七號告示ニ隨ヒ其通帳ヲ驛遞局ニ差出シ檢閲ヲ請フヘシ
右告示ス

○第二款 郵便往復端書使用方法

▲明治十九年三月遞信省告示第拾貳號

明治十七年(十二月)農商務省第十一號告示郵便往復端書使用法第一項中若シ下發ヨリ又マテシ四十七字ヲ削リ同項ヘ左列但書ヲ追加ス
但發信ノ下キ返信紙ノ表面ニ返信ニ用ユヘキ差出人受取人ノ宿所氏名ヲ記載シ又ハ返信紙ノ裏面ニ返信用ノ文言ノ幾部ヲ記入シタルモノハ使用濟ト認メス又發信ノ下キ返信紙ヲ截斷シ發信紙ノミ差出スヲ得
右告示ス

○第三款 郵便往復端書使用法

○第一類 ○行政法 ○郵便往復端書使用法

○第三款 郵便爲替細則

▲明治十八年九月農商務省告示第貳拾號

郵便爲替細則左ノ通相定メ明治十八年十月一日ヨリ施行候條此旨告示候事

郵便爲替細則

第一章 總則

第一條 郵便爲替ハ爲替差出人ヨリ拂込ミタル金員ニ對シ甲郵便局ニ於テ爲替證書ヲ交付シ乙郵便局ニ於テ其證書ニ對シ爲替金ヲ拂渡スモノトス

第二條 爲替證書ニハ差出人受取人ノ氏名ヲ記載セズ其氏名宿所等ハ差出人ノ指示スル所ニ從ヒ甲振出局ヨリ乙拂渡局ニ報知スルモノトス

第三條 爲替金額圓位以上ノモノハ驛遞總官特ニ指定スル郵便局ニ於テ差出人ノ望ニ依リ電信ヲ以テ報知スルコトヲ得

第四條 爲替證書ハ驛遞局ニ於テ發行シタル式紙ニ限ルヘシ其證書ノ雜形左ノ如シ

金員爲替證書雜形 官告示第六十四號

郵便爲替證書

振出		何年		何國	
日附		何月		何日	
印		郵便局		證書番號	
		何號		何番	
		拂渡		日附	
		印			

一金何圓錢厘

右者拙者ヨリ相廻シ置候爲替報知書ニ照シ規則之通手數ノ上御渡可有之候也

何國
何郵便局

爲替
金受
取人
配名
調印

何國何郡何郵便局
氏名印

驛遞局

郵便爲替報知書

振出 日附 何年 何月 何日	何國 何郵便局	證書 番號 何號 何番	拂渡 日附 印
----------------------------	------------	----------------------	---------------

一金何圓錢厘
右者左ノ上部ニ記ス氏名ノ者ヨリ下部ニ記ス氏名ノ者へ可差送金高コテ其金高ハ當局へ受取候ニ付即其局へ宛テ爲替證書相渡候條受取方申出候ハ、如規則手數ノ上御渡可有之此段及報知候也

何國
何郵便局

何國何郡何郵便局
氏名印

差出人 宿所 氏名	受取人 宿所 氏名
-----------------	-----------------

局遞驛

電信ニ依テ發シタル爲替ノ證書ニハ前ニ示ス表中各區畫ニ於テ「番號」振出局名「電報着目」ノ三區畫又再渡爲替證書ニハ「振出局名」ノ一畫ヲ備フルモノトス

第五條 爲替差出人又ハ爲替證書再渡ヲ請求スルモノハ爲替料又ハ爲替料及手數料ヲ前納スヘシ但電信ヲ以テ爲替ヲ報知スルコトヲ望ムトキハ別ニ電報料ヲ納ムヘシ

爲替證書再渡ヲ請求スル場合ニ在リテハ其爲替料及手數料ハ便宜原爲替證書金額ノ内ヨリ引去リ納ムルコトヲ得

第六條 爲替差出人自ラ爲替金ヲ差出シ能ハサルトキ或ハ差出人又ハ受取人自ラ證書再渡ヲ請求シ能ハサルトキ或ハ代人ヲ立テ爲替願書又ハ請求書ニ本人記名調印シ代人亦代人ノ肩書ヲナシテ記名調印スヘシ但別紙ニ委任文ヲ記シ記名調印シテ差出ストキハ此限ニアラス

爲替受取人自ラ爲替金ヲ受取ル能ハサルトキハ代人ヲ立テ本人ニ於テ爲替證書ノ裏面又ハ別紙ニ委任文ヲ記シ記名調印シ代人ハ爲替證書相當ノ位置ニ代人ノ肩書ヲナシテ記名調印スヘシ

第七條 爲替ニ屬スル金錢ヲ受授スルトキハ相互自前ニ於テ之ヲ計算ス

○第一類○行政法○郵便爲替細則

第八條 差出人ニハ振出局ニ於テ其拂込金ニ對スル受領證書ヲ交付スヘシ
差出人ハ其受領證書ノ相當ノ位置ニ差出人受取人ノ宿所氏名ヲ記載シ
テ之ヲ保存シ後日爲替金ノ返戻又ハ證書再渡ヲ請求スルトキノ證據ト
ナスヘシ

第九條 爲替受取人又ハ差出人死亡等ノ場合ニ於テハ其相續人等ヨリ事
實ヲ證明シ證人ヲ立テ爲替金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第十條 爲替差出人又ハ受取人印形紛失等ノ爲メ爲替金ノ受授ニ關スル
願書證書等ニ調印シ能ハサルトキハ其旨ヲ附記シ證人ヲ立ヘシ

第十一條 爲替金ノ受授ニ關シ證人トナリ事實ヲ證明シタルモノハ其受
授ニ關スル願書證書等ニ記名調印シ其事由ヲ附記スヘシ

第十二條 爲替金ノ拂渡ヲ請求スルモノハ郵便局吏員ノ尋問ニ對シ差出
人受取人ノ宿所氏名等ヲ陳述スヘシ
又必要ノ場合ニ於テハ郵便局吏員ニ對シ該吏員ノ満足スヘキ證人ヲ立
テ又ハ正當受取人タルコトヲ證明スヘキ證據物ヲ該吏員ニ展示シ若ク
ハ之ヲ差出スヘシ

第十三條 爲替金ノ拂渡ヲ請求スルモノアルトキ左ニ掲クル事故アル場
合ニ在リテハ郵便局ニ於テ拂渡停延書ヲ其請求人ニ付與シ爲替金ノ交

付ヲ停延スルコトアルヘシ
一 爲替證書調製上違式ノトキ若クハ其證書ニ對スル報知書未達又ハ不
符合ノトキ
二 爲替資金ノ補充金未達ノトキ
第十四條 規則上爲替金ノ交付ヲ停延シタル間ハ爲替證書有効期限ヲ經
過ヲ中止スルモノトス

第十五條 爲替取扱時間ハ爲替ヲ取扱フ郵便局前ニ揭示スヘシ
爲替取扱休日ハ左ノ如シ
一月一日 二日 三日 新年宴會
孝明天皇祭 紀元節
春季皇靈祭 神武天皇祭
秋季皇靈祭 神宮神嘗祭
天皇節 新嘗祭
日曜日

第十六條 驛遞局上版ノ料紙ヲ用フヘキ願書請求書等ノ式紙ハ爲替ヲ取
扱フ郵便局ニ於テ申受クヘシ
第二章 爲替振出

○第一類○行政法○郵便爲替細則

